

# 美術年報

2009

徳島県美術家協会

# 目 次

はじめに .....	徳島県美術家協会長 佐野 比呂志 .....	1	
徳島県美術家協会規約 .....		4	
平成19年度事業報告 .....		5	
役員名簿(平成20年度) .....		8	
徳島県美術展開催運営要項 .....		14	
第63回県展記録 .....		18	
第63回県美術展出品・入選等状況 .....		27	
徳島県美術展審査員一覧 .....		28	
第16回放美展記録 .....		32	
各部記録(平成20年度)			
・日本画部 .....	部会長 西野 和男 .....	38	
・洋画部 .....	部会長 榊田 務 .....	41	
・写真部 .....	部会長 櫛淵 魏 .....	50	
・彫刻部 .....	部会長 松永 勉 .....	55	
・美術工芸部 .....	部会長 山上 馨 .....	59	
・書道部 .....	副会長 新居 藍州 .....	65	
・デザイン部 .....	部会長 福井 章 .....	72	
第63回県美術展審査評 .....		76	
会員名簿			
・日本画部 .....	84	・美術工芸部 .....	92
・洋画部 .....	85	・書道部 .....	93
・写真部 .....	88	・デザイン部 .....	104
・彫刻部 .....	91		
第63回徳島県美術展(県展)公募規定 .....			106
第63回県美術展 特別・招待・無鑑査・賛助出品者名 .....			107

あとがき

## はじめに

徳島の美術の春の祭典、第16回放美展は5月2日(金)から6日(火)まで5日間、県郷土文化会館で開催された。出品点数1,179点、展示総数671点、入場者数4,594人、盛大に開催。展示、入場者数も前回より多く、将来さらに飛躍することを願ってやまない。

県内最大の公募展、第63回県美術展は、第1期が10月4日(土)から12日(日)まで、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、デザインの6部門、入選作品は507点、無審査作品73点。第2期は14日(火)から22日(水)まで、書道部門の405点を展示。内容も年々充実を続けている。各部門の審査員の言葉も一致して、個性的であること、そして自分のやりたいことを戸惑うことなくストレートにぶつけている作品に注目したとある。作家の方々も充分この意図を解して、展覧会のために作るのではなく、自己の高揚のために発展していったほしい。なお出品者の方々に毎年書くことだが、多くの中央展以上に厳選である県展に臆することなく、挑戦し続ける情熱と真摯な努力には、心から敬意と深い感謝を表したい。

各部門の活動や関係団体、協会員の精進も例年通り活発であった。その主なものをあげることにする。

毎年のことではあるが、第46回徳島彫刻集団の野外彫刻展が、10月19日(日)から11月28日(金)まで、徳島中央公園で開催された。特別企画、大阪、兵庫、香川、徳島の9名の彫刻家の協賛出品もあり、愛好者にとっては何回となく足を運んでは楽しんだ。

5月22日(木)から25日(日)まで県郷土文化会館で開催された県美協洋画部会会員展も毎年の行事ながら盛会のうちに終了した。

第6回徳島アート21展が、6月4日(水)から8日(日)まで阿波銀プラザで開かれた。年を重ねて作品の充実が見られた。第61回示現会巡回徳島展が、6月13日(金)から6月17日(火)まで、県郷土文化会館で盛大に開催された。示現会巡回展も徳島の作家愛好家にとってはもうなじみ深いものになり、心待ちして何回となく会場に足を運ぶ方達もいた。中央展の雰囲気が味わえるだけに感謝にたえない。第47回日本現代工芸美術展、徳島巡回展が8月1日(金)から10日(日)まで開か

れた。会場の県郷土文化会館には、これも徳島では常時開かれる展覧会ではなく、期間中愛好者が続いた。9月にはいって、1日(月)から7日(日)まで、県女流美術家協会第100回記念展が、第100回記念大賞展とともに行われた。県女流美術家協会の大きい業績をたたえ、さらなる発展を祈る。11月20日(木)から24日(月)まで、徳島版画展が阿波プラザで好評のうちに開催された。徳島版画特別賞受賞者展、徳島版画小品展等も同時期別会場で楽しく行われた。

個人では、平木美鶴木版画作品集が出版された。1982年から現在までの25年間に制作の200点を7つの時期に分け変化していく内容で構成されたものである。4月26日(土)から5月25日(日)まで、出版記念展が那賀郡の相生森林美術館で開催された。5月に書道部の玉城乾香さんが、毎日書道展で審査員に昇格された。記念展も行われ、県美術界にとっても祝福すべきことである。09年1月10日(木)から3日間、県郷土文化会館で、12年振り3回目となる個展「書の世界—果てしない書の旅」と題し書展が開かれた。近代詩文書を中心に作品70点余が展示され感動的な展覧会であった。

次に個展であるが、まず3月21日(金)から25日(火)まで榊田務さんの四国大学退官記念画展が開催された。展示作品はこの数年に制作したものを中心に油絵約40点のほか、色紙に描いた墨彩画。榊田さんは県美術家協会洋画部会長で、東光会会員。確かなデッサン力に流麗な色彩感覚は、観る者の心情に深くくい入る。ひととき美の世界に酔うことができる個展であった。会場は四国大学交流プラザキャンパスギャラリー。3月20日(木)から24日(月)まで、阿波銀プラザで、仁木孝大、小野寺穰、洋画と立体の二人展が、宙(そら)と大地の共演と題して開かれた。洋画と立体の展覧会も面白い企画だった。5月16日(金)から18日(日)まで、阿波和紙伝統産業会館で日本画の岡英彦展が開催され好評であった。岡さんは、日展に出品を続ける日展会友である。河崎良行彫刻展が7月19日(土)から8月31日(日)まで、大鳴門橋架橋記念館(エディ)で開催された。作品7点のほか、海峡の風景シリーズで彫刻作品のパネル写真14点を掲示。彫刻作品の美しさおもしろさに、海峡の風景とともに心よい時間がすごせた。9月7日(日)から13日(土)まで、東京銀座の美術館ギャラリー青羅で、長尾弘久版画展が開催された。「心象の共振」とサブタイトルがつく。長尾さんが東京で個展を開くのは初めてで、リトグラフなどさまざまな技法を使った30点を展示。「形象」「わだつみ」など02年以降のシリーズ作を中心に個性豊かな作風が楽しめた。長尾

さんは、県内の版画作家が03年に結成した「徳島版画」の強力なメンバーの一人で、版画の普及に取り組んでいる。10月7日(火)から13日(月)にかけて、松下慶一作陶展が、徳島そごう5階美術画廊で開かれ近作70余点が展示され、作品を求める愛好家も多く盛会であった。11月1日(土)から4日(火)の間、県郷土文化会館で、第35回記念双暢会書展・国際書画展が開催された。併催として王定成・東南光書展、王亜雄漆芸作品展もあり、研究発表・シンポジウム・国際交流会なども行われ、記念展としての大きな業績を残し盛会のうちに終わった。

今年もまた訃報のことは記すことになった。県美術家協会書道部会長上田溪水さんが9月2日、84才で死去された。小坂奇石に師事、小坂先生の書風を継承しつつ、古典を研究し、正鋒会長として後進の指導にも尽くされた。晩年は自作の漢詩を題材にした書を数多く発表した。県書道展運営委員会委員長から01年県美術家協会書道部会長となる。昨秋の第22回国民文化祭の美術展(書道)の運営審査で中心的役割を果たされた。心からご冥福をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、四国放送(放美展)並びに徳島新聞社(県美術展)、そして、美術家協会の皆様方に心から感謝するとともに、ますますのご発展をお祈りして、はじめの言葉といたします。

平成21年3月

徳島県美術家協会会長

佐野比呂志

# 徳島県美術家協会規約

昭和23.	9.	12	規約制定	
32.	7.	14	新規約制定	
33.	4.	29	規約一部改正	
42.	4.	23	〃	
46.	4.	29	〃	
47.	5.	29	〃	
49.	8.	22	〃	
52.	7.	23	〃	
56.	5.	5	〃	
58.	6.	5	〃	
61.	6.	21	〃	
平成4.	6.	27	〃	
	6.	25	〃	
	10.	6.	27	〃

## 第1章 総 則

第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務所を徳島市内におく。

第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。

第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。

- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻  
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン

第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会  
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

## 第2章 役員および会員

第5条 本会に次の役員をおく。

会 長 副会長(2名)  
理 事(若干名) 監 事(2名)

会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員任期は2年として留任をさまたげない。

第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。

第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。

第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員を選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。

総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあつては3名、

31名以上の部にあつては、さらに10名毎に1名選出できる。

第9条 理事会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

## 第3章 部 会

第10条 各部に次の役員をおく。

部会長・委員(部会員数の3割以内)  
部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員任期は2年とし留任をさまたげない。

第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員を選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。

第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

## 第4章 経 費

第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。

第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。

第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (参 考)

☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内置く。

☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(徳島公園内の県立図書館)内へ移す。

☆昭和25年12月18日 協会パッチを選定(図案は鬼塚副会長)

☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名～5名)によることとする。

☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。

# 平成19年度 事業報告

- (1) 総 会 ◇平成19年6月16日(土)  
◇県郷土文化会館 5F第6会議室  
◇平成17・18年度事業報告及び決算報告  
◇監査報告・承認  
◇役員改選  
◇平成19年度事業計画及び予算審議  
◇その他
- (2) 第15回放美展 ◇平成19年5月2日(水)～5月6日(日)  
◇県郷土文化会館 3F全展示室及び4F会議室(会議室2～4)  
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの664点  
展示  
◇受賞者表彰式 平成19年5月6日(日) 県郷土文化会館
- (3) 第62回県美術展  
◇第1期 平成19年10月3日(水)～11日(木)  
◇県郷土文化会館 3F全展示室及び4F会議室(会議室2～4)  
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの566点展示  
◇第2期 平成19年10月13日(土)～21日(日)  
◇県郷土文化会館 3F全展示室  
書道の396点展示  
◇第62回県展表彰式 平成19年10月7日(日) 徳島新聞社7F会議室
- (4) 県展・放美展会議  
◇第62回県展運営委員会・県展事務局員会議(19. 8. 22)  
◇第63回県展運営委員会・県展事務局員会議(20. 2. 20)  
◇第15回放美展運営委員会(19. 4. 26)  
◇第16回放美展運営委員会(19. 12. 5)
- (5) 各部会行事 ◇洋 画 部  
第21回洋画部会員展(19. 5. 24～27) 県郷土文化会館  
◇写 真 部  
「高知城、日曜市、牧野植物園」撮影会(19. 6. 3)  
◇デザイン部  
部会展「地球環境」(20. 2. 16～20) クレメントプラザ4F

- (6) 各種後援
- ◎第20回記念長玄書道会展 (19. 4. 6～8)
  - ◎書道企画展「没後20年 孤高の書家 田中松亭」 (19. 4. 7～22)
  - ◎第8回ニコールクラブ徳島支部写真展 (19. 4. 14～16)
  - ◎書業77年記念 第13回荒井天鶴書作展 (19. 4. 19～22)
  - ◎第52回成蹊書道会展 (19. 5. 25～27)
  - ◎第29回アトリエM作品展 (19. 5. 31～6. 4)
  - ◎第14回大叡会書作展 (19. 6. 1～3)
  - ◎徳島アート21 第5回展 (19. 6. 7～10)
  - ◎第30回「炎」作品展 (19. 6. 8～10)
  - ◎第25周年記念双愛会書作展 (19. 6. 15～17)
  - ◎第28回東光会徳島支部展 (19. 6. 15～17)
  - ◎書道企画展「徳島県・広東省友好交流  
10周年記念徳島現代書家選抜展」 (19. 6. 23～8. 5)
  - ◎書道企画展「小坂奇石展～奇石とその時代の書人たち～」  
(19. 6. 23～8. 5)
  - ◎第25回徳島平和美術展 (19. 6. 28～7. 1)
  - ◎吉野川市文化協会 第3回総合美術展 (19. 7. 14～16)
  - ◎第21回四国大学文学部書道文化学科教員展 (19. 7. 25～31)
  - ◎第2回翔和会かな書作展 (19. 7. 27～29)
  - ◎第66回世代美術展 (19. 8. 2～5)
  - ◎第30回八紅展 (19. 8. 2～5)
  - ◎第21回徳島花を写す会写真展 (19. 8. 10～12)
  - ◎第34回双暢会書展 (19. 8. 10～12)
  - ◎第39回石井美術の会作品展 (19. 8. 23～26)
  - ◎油彩三人(井沢・辻野・宮井)展 (19. 8. 24～27)
  - ◎第31回15人展 (19. 8. 28～9. 2)
  - ◎第70回書芸院展(故高岡晃祥、佐原和清とその仲間たち)  
(19. 8. 30～9. 2)
  - ◎第37回直心会書展 (19. 8. 31～9. 2)
  - ◎第36回徳島雪心会書作展 (19. 9. 7～9)
  - ◎第63回青美展 (19. 9. 7～10)
  - ◎第52回書協人展 (19. 9. 7～9)
  - ◎宇山泰鳳小品展 (19. 9. 12～18)
  - ◎福井章イラスト展「徳島70景」 (19. 9. 20～25)
  - ◎第12回尚真会展 (19. 9. 28～30)
  - ◎第47回写楽会写真展 (19. 9. 28～10. 1)
  - ◎第6回書朋六人展 (19. 10. 5～7)



- ◎第13回徳島障害者芸術祭 エナジー2007 (19. 10. 10～14)
- ◎第19回“燎”4人展 (19. 10. 11～15)
- ◎第6回大貝久義個展 (19. 10. 13～29)
- ◎徳島県・広東省友好交流10周年記念：  
     徳島県立文学書道館開館5周年記念書道特別展  
     「広州芸術博物院秘蔵の書～明・清から現代」 (19. 10. 23～11. 25)
- ◎第2回四国由源書展 (19. 10. 19～21)
- ◎第6回一心会書展 (19. 10. 19～21)
- ◎第19回睦月会書展 (19. 10. 24～26)
- ◎第13回六書会書展 (19. 10. 26～28)
- ◎第2回写真同人「光」写真展 (19. 10. 30～11. 4)
- ◎第5回徳島版画展 (19. 11. 1～5)
- ◎第22回藍美展 (19. 11. 1～4)
- ◎第2回バルの会洋画展 (19. 11. 11～18)
- ◎第37回芳藍書道展 (19. 11. 23～28)
- ◎第2回吉野川市書人会作品展 (19. 11. 23～25)
- ◎日本リアリズム写真集団 徳島支部写真展 (19. 11. 30～12. 2)
- ◎第22回正鋒会書作展 (19. 12. 7～9)
- ◎第36回歳末チャリティ作品・色紙即売展 (19. 12. 8～10)
- ◎第28回臨池会書展 (19. 12. 15～16)
- ◎第28回徳島文理大学書道部：墨彩展 (19. 12. 16～17)
- ◎第11回旺美展 (19. 12. 19～25)
- ◎第32回東玄書道会展 (20. 1. 5～7)
- ◎四十宮隆志展 (20. 1. 11～14)
- ◎第13回退教協 悠美展 (20. 1. 18～20)
- ◎第11回せせらぎ書展 (20. 1. 19～21)
- ◎第39回ナルトぴんぼけクラブ写真展 (20. 2. 8～10)
- ◎書道特別展「中林梧竹展～若き日から書の軌跡をたどって～」  
     (20. 2. 16～3. 23)
- ◎書道企画展「俳人たちの書」 (20. 2. 16～3. 2)
- ◎第33回四国大学文学部書道文化学科卒業制作展 (20. 2. 21～27)
- ◎第28回書研社展 (20. 2. 22～24)
- ◎第41回モダンアート徳島支部展 (20. 2. 28～3. 3)
- ◎書道企画展「酔うて候 河鍋暁斎S幕末明治の書画会」  
     (20. 3. 4～3. 23)
- ◎第42回書道研究 清潮書作展 (20. 3. 7～9)
- ◎青彩美術展 (20. 3. 27～30)

# 徳島県美術展開催運営要項

## 第1条 (名称・開催目的)

本展は徳島県美術展「以下(県展)という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

## 第2条 (主催団体)

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

## 第3条 (開催運営の組織)

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」とを設置する。

運営委員、事務局員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

### 〔県展運営委員会〕

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長・副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から3名の合計21名でこれを構成する。

運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

- 1 開催運営の基本事項について審議決定すること。
- 2 審査員の推薦決定に関すること。
- 3 審査方法、表彰に関すること。
- 4 収支予算、決算の承認に関すること。
- 5 その他県展開催に必要なこと。

### 〔県展事務局〕

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会各部会から2名、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社2名の計17名で構成する。

事務局員の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

- 1 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
- 2 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
- 3 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
- 4 収支予算案の作成に関すること。
- 5 開会式、表彰式の準備に関すること。
- 6 広報PRに関すること。

7 その他県展開催の下準備に関すること。

#### 第4条 (出品部門)

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

#### 第5条 (展示作品)

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。

その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

(1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

(1) 特選を連続3回得たもの。

(2) 年間を問わず特選を4回得たもの。

(3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。(特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする)

(4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

(1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会員、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。

(2) 各部の会長を永年勤めて実績があり、運営委員会の議を得た方。

(注) ① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

#### 第6条 (審査員)

審査員は県外審査員とする。

審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

#### 第7条 (審査)

審査は公開により行う。

#### 第8条 (入選、入賞数)

1 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞 (特選の中から1点)	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳島県美術家協会会長賞	3	3以内	規定数
洋 画	3	徳 島 県 知 事 賞	6	5〃	〃
写 真	4	徳島県議会議長賞	9	8〃	〃
彫 刻	1	徳 島 県 教 育 長 賞	2	2〃	〃
美術工芸	2	徳 島 市 長 賞	4	3〃	〃
書 道	8	徳島新聞社長賞	14	13〃	〃
デザイン	2	四国放送社長賞	3	3〃	〃

※特別賞は各部門とも特選の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。  
賞はいずれも同格で毎年部門により1つずつ変更し賞を贈ります。

2 入賞は1人1賞とする。

#### 第9条 (表 彰)

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

- 1 特 選……賞状、賞金7万円
- 2 準特選……賞状、賞金3万円
- 3 奨励賞……賞状、記念品
- 4 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

- 1 徳島県知事賞 1名
- 2 徳島県議会議長賞 1名
- 3 徳島県教育委員会教育長賞 1名
- 4 徳島市長賞 1名
- 5 徳島新聞社長賞 1名
- 6 四国放送社長賞 1名
- 7 徳島県美術家協会会長賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

#### 第10条 (収支予算)

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

- 1 出品料
- 2 入場料
- 3 図録売り上げ代金及び広告料
- 4 各種補助金
- 5 その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年12月末に決算を行い、2月に開催する運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第11条 (出品料・協賛費)

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

- 1 県美術家協会会員の出品料は、1点目3,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 2 一般の方の出品料は、1点目4,500円、2点目から1点につき1,500円とする。
- 3 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は、1点3,500円とする。

第12条 (入場料)

県展の入場料は次の通りとする。

- |   |        |     |      |    |      |
|---|--------|-----|------|----|------|
| 1 | 一般・大学生 | 前売り | 500円 | 当日 | 700円 |
| 2 | 高校生    | 前売り | 250円 | 当日 | 300円 |

第13条 (附 則)

本要項の規定は昭和61年9月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の3分の2以上の議決を経てこれを行うものとする。

- |            |      |
|------------|------|
| 平成4年2月22日  | 一部改正 |
| 平成4年5月16日  | 一部改正 |
| 平成8年5月25日  | 一部改正 |
| 平成11年5月14日 | 一部改正 |
| 平成13年5月30日 | 一部改正 |
| 平成14年9月25日 | 一部改正 |
| 平成17年6月14日 | 一部改正 |
| 平成18年2月15日 | 一部改正 |

# 第63回県展記録

会期 (第1期) 平成20年10月4日(土)～12日(日)  
(第2期) 平成20年10月14日(火)～22日(水)  
会場 県郷土文化会館

## 日本画

- 〔審査員〕 雲丹亀利彦
- 〔特別出品〕 西野 和男
- 〔招待〕 橋本 正弘 中川 健 岡 英彦 土方るみ子 土井 洋子  
中西 芳雄
- 〔賛助出品〕 長谷 壽
- 〔無鑑査〕 日浦 猛史
- 〔特選〕 平野 真里 (徳島県美術家協会会長賞)  
宮越 千佳
- 〔準特選〕 鈴木 恵子 西村美也子 梶浦 千瑞
- 〔奨励賞〕 反田 卓 岩脇 恵子 坂 容子
- 〔入選〕 天羽 弘毅 三谷 浩三 齋藤 久男 中山 茜 島山 耀子  
柳田 一子 井上 弘子 大塚さやか 澤 真弓 三ツ本繁美  
藤木 史子 石原 千鶴 吉本 悦子 富永 博子 板東 里沙  
島田 健作 有持 廣子 森崎 雅子 武市寿里麻 秋月ヒサヨ  
新居麻里子 大黒 規子 田中 悦子 川真田哲雄 泉 福美  
石動 智子

## 洋画

- 〔審査員〕 桜井 寛
- 〔特別出品〕 佐野比呂志 榊田 務
- 〔招待〕 清水 巫悞 楠瀬 等 露口 敏幸 長尾 弘久
- 〔賛助出品〕 岡 多美子 河田 安市 黒崎 志郎 後藤田仁一 松川 寛  
岡田 守 中辻奈美枝

〔特選〕	南城ミツ子 (徳島県知事賞)					
	玉田 秀子	野口 暁子				
〔準特選〕	林 敏雄	川人 則子	田中 康子	河本多恵子	林 静代	
	大西利津子					
〔奨励賞〕	森 利江	中山 清一	西川 敬子	藤井 香世	東 紀美子	
〔入選〕	井沢 忠昭	宮本 芳美	岸本 花子	山田 智千	竹原 良亮	
	前野 亮治	浦川 起也	野上 恵子	島村 英之	大串 直行	
	福良 哲子	近藤 克子	曾我部清美	宝山 蘭美	宮浦 和子	
	前川 富子	佐々木 恵	坂東 富恵	西條 明彦	藤丸 家栄	
	横石 和子	妹尾 節子	喜多 直彦	尾浦 粹子	三谷多美子	
	細川 遥	埴渕 照二	藍谷 浩平	中島 洋子	山口トシ子	
	富浦 道子	藤井 文明	猪子 大地	三谷ミヤ子	姫田 正義	
	中山 律子	森 和子	厚芝ひろみ	三吉 樵	白沢 獏	
	伊良原貞子	竹内 れい	田中シゲミ	佐藤 敬子	片山美代子	
	麻植 尊正	鎌田まゆみ	島田美奈子	藤本 晴子	日出美佐江	
	増田 政春	梅津美砂代	青木 幸子	香西 咲紀②	松尾 実	
	中村 恵一	米沢 博	小浜 敏也	西川 周三	轟 愛	
	犬伏美智子	吉村 佳己	富士原卓弘	大平 妙子	藤崎 恭子	
	梶川 穂波	岡本 英見	林 文子	仁木 英子	柏木 安代	
	宮田 京子	宮村美智子	高橋 照子	富田 君子	高橋 朗子	
	戸井 李名	小泉たか子	加川由紀子	松浦 英子	長井 秀夫	
	佐藤ますこ	森 あやね	大津 憲文	杉本 祥子	武田 洋子	
	佐藤 友美	尾田 稔子	古川 香織	細川 禮子	井住香代子	
	吉村 朋恵	堀江 幸子	伊勢 浩章	吉田 玲子	山口 明美	
	宮本 典代	阿部佐代子	越久 高照	阿部 文代	大西 道夫	
	野村 雅子	吉田 仁美	若山 一恵	森 幸江	小笠原秋子	
	坂東 弘子	川上 晴美	黒島 貞子	富永 美香	答島 久子	
	谷口 園	和田 寿子	杉本 悠希			

## 写真

〔審査員〕	田沼 武雄				
〔特別出品〕	西條 征二	櫛渕 魏			
〔招待〕	増田 清次	井上 光雄	木田 英之	勝西 雅夫	笹田 敏雄

	三好 和義	上野 照文	森 賢一	橋本 圭祐	前浦 芳久
	荒井 賢治	林 敏彦	古井 謙吉	中野 建吉	井藤 光章
	増田 寿	柳本 正	大和 健司	船越 正文	堀淵 完治
〔無鑑査〕	久保 英樹	堀口 幸男	岩崎 英昭		
〔遺作〕	安長 剛				
〔特選〕	阿部 啓三	(徳島県議会議長賞)			
	大津 勝治	西野 倫子	廣野美知子		
〔準特選〕	宮本 幸治	櫛淵 紳哉	郡 利明	中野 久世	平野 史子
	神野 太三	福井 純子	森住 博	伊達 照子	
〔奨励賞〕	森 光	坂野 正明	岸田 義市	池添 秀信	森崎 敦子
	山本 雅敏	大塚 尚	川眞田慶治		
〔入選〕	長田 貞男	住友 登	吉田 圭作	国見 良幸	吉岡 伸夫
	井上 翔	長野 寛	中垣 節	佐治 孝	多川 静守
	勝瀬 彪	三木 理司	石川 徹雄	一宮 康人	梅本 貞範
	榎本 悟	大塚 由香	岡村 吉啓	川西 明雄	久保 翠
	佐々木敏幸	谷 賢太郎	蔭山 英和	中尾 一元	谷 ひづる
	四宮 清文	下山 久男	竹内 好文	多田 進	今出 弘
	瀧花 性善	林 好一	岡久 吉徳	阿部千代恵	富沢 啓司
	野藤 敏美	島 廣幸	棚橋 仁志	谷 嘉明	辻 絹子
	辻 義徳	土橋 成行	堤 信寿	関口つとむ	田中 義孝
	二階 博司	矢部 弘子	秋野 昌子	浜田佳津子	石本 隆二
	根ヶ山美江	根ヶ山 治	山下 助信	内藤クニエ	富岡佳代子
	寺尾 享美	日出 顕作	佐藤 考利	佐滝 宏和	南 賢治
	伊勢 勝彦	早淵 茂	佐倉 幹雄	原田 章一	橋本 勝
	野口 道子	西岡 祥一	長浦 武尚	鍋島治世子	小川 勝
	賀川 泰広	橋本 和夫	丈池 孝子	高島 武夫	横手 章子
	住友 徳	宮前 稔	矢野 志江	平澤 澄子	平澤 昭世
	板東 律雄	林 広司	播 博文	林 邦光	富加見美枝
	福原 敏雄	岸田 立身	埴淵 節子	熊谷美智子	久保 祐一
	板東よしお	山川 光磨	福井 邦博	富士 弘子	増谷 好子
	松浦 孝	松原 玲子	岸田 知久	堤 登勢子	田中 伸廣
	野口 佳一	吉田 隆之	上杉 大一	梶村 鉄次	藤本 英子
	谷中美智子	山田 勝二	佐藤 進	森住 孝義	山口 正明
	渡邊 信二	今川 堇	河田 清	新居真一郎	氏師 敏晴



大西 啓子	木下 昇	岡村 清	武林 恭史	安丸 弘二
田村 泰弘	森住 啓	稲垣 喜修	中山 良男	井上 秀人
佐藤 義雄	井上 憲治	大林 義治	多田 康文	福原 和代
板東 泰雄	大塚喜久子	新居 修		

## 彫 刻

〔審査員〕 林 武史

〔特別出品〕 河崎 良行

〔招待〕 佐藤 隆 井下 俊作 鎌田 邦宏 松永 勉 居上 真人

〔贊助出品〕 長岡 強

〔無鑑査〕 上月 佳代

〔特選〕 三原 敏文 (徳島県教育委員会教育長賞)

〔準特選〕 山橋大二郎 高丸 公相

〔奨励賞〕 東 光司 中川 伸一

〔入選〕 二宮 治夫 武田亜希子 三輪英利子 安藝 淳二 増田 有美  
堀口 香菜 入村友佳子 新居千枝子 笠井 正彦

## 美術工芸

〔審査員〕 石川 充宏

〔招待〕 高橋 勇 七條猪三郎 多智花佐代子 松下 雄介 松下 慶一  
森 賢一 橘 惠 犬伏 絢

〔贊助出品〕 中川 存 矢野 款一

〔無鑑査〕 森 明治 藤井 哲信

〔特選〕 石田 節子 (徳島市長賞)  
妹尾 文子

〔準特選〕 越 由子 平尾 静子 田村栄一郎 吉田 祐子

〔奨励賞〕 吉田 陽子 武田 美子 近藤佐起江

〔入選〕 宮本 薫 前野 亮治 長尾 敏子 秦 信子 大貝 貞雄

石川多美子	南 泰樹	玉木 隆子	南 郁代	古谷 清美
手塚 健一	萬藤 武徳	木田サチコ	浅山 義明	野村 裕子
柏木マスヨ	横井 直美	小川 光	高瀬 裕司	大貝 寿子
面田 善彦	河野さえ子	前田 道子	横井嘉世恵	寺島喜代子
笹田みずえ	藤川 恭子	家形笑美子	高松 正彦	森本 静子
西窪 弘	平田志保子	加藤 和美	加藤 伴江	松葉恵美子
石井 春夫	賀川マチ子	里見 正威	相原 良平	山村 啓子
小林 鳳美	阿部真由美	松原 敦子	四十宮年代	下内 良一
真鍋 籙弘	松村奈津美	丸居 哲雄	三木 澄子	湯浅 三千
美浪 文	大内 敏男	村上 綾子	森 克江	阿部 徳子
大川 雅代	大木 真澄	青木 壽美	村川 栄一	曾江 司
松本 宏	山下壽美代	阿部 巍	谷口 治	福本美智代
吉田 眞弓	龍木 秀子	山下 久美	和佐 豊子	林 恵子(陶)
内藤 久子	美馬 潤子	小栗加代子	桜井 慎治	竹岡由美子
林 恵子(ガラス)	武田 純子	前川 正子	田中木美子	大西 道夫
井内 順子	山本 和子	森 敏子	中山 公司	中西 達也
平瀬 進也	井内 晃俊	板東 啓子	太田 裕子	四宮 千代
山本 由実	梶原 浩二	斎藤 康男	田村 佳代	田村 純子
竹田 充子	谷口 武平	横山恵美子	谷内 年子	鳥井 明子
家谷三千代	阪井 和代	綾野 昌子	和佐 勝代	永山昭一郎
三橋 玄児	鈴江 正子	落久保重利	山本 志男	大西 君代
斎藤 和彦	近久千加代	天野 和子	岡谷あかね	鈴江 兼子
石田 艶子	富永 和代	多田 雅子	吉田 一陽	島崎 明美
佐治 孝	みついみつ	船喜 牧子	京寛 裕子	松下 羊子
吉田 敏明	山田真由美	高濱 玲子		

## 書 道

〔審査員〕	真神 巍堂	前島 泉洲	長谷川牧風			
〔特別出品〕	新居 藍州					
〔招待〕	宮井 青雨	長原 皋聖	西 南龍	成尾 莊秀	原田 霄月	
	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月	美馬幾美賀	春藤 大耿	
	中谷 史子	長谷 美峰	勝瀬 景流	川上 虹泉	近藤 静苑	
	日下 溪翠	岡島 順子	荒井 彭仙	竹田 和代	山口 華城	
	藤若 美風	武市 鳴雲	中尾 勝子	富久 鳴泉	永松 春苑	

鳥田 小園	坂本 霄風	浜 佳香	隅田 英二	松本 清香
多田 清芳	玉城 乾香	薄田 玲泉	能仁 華瑤	高田 青蓮
三浦富美代	宇山 泰鳳	亀石 文苑		

〔贊助出品〕 東 南光

〔無鑑査〕 戸出 芳泉 川村 春琴

〔遺作〕 上田 溪水

〔特選〕 勝浦 美和 (徳島新聞社長賞)

石井 瞳	乾 温史	米澤 司子	芳田 知子	宮守 とみ
岩本 雅三	玉城 若菜			

東野 恵巳	藤村 恭子	松永 浩子	中西 淑子	谷本 洋子
真鍋千代子	山本 愛美	上田 久恵	山本 美幸	井上 まり
高瀬 善郎	平岡 郁子	福山 啓子	中川 博雅	

後藤 佳美	宇山 和治	鈴木 正友	林 みゆき	東 弥生
遠藤 孝子	宮西 恵子	岡崎 啓子	榊原早知子	佐藤 恵子
吉田さい子	枅富 年子	田淵 勲		

〔入選〕

漢字の部

山内希与子	中尾三智子	山岡 理恵	東條 裕子	吉平 順子
永岡ツタエ	西村 宣昭	平野 実	新見 明子	福永久美子
市原 美希	稲木 裕美	四宮 千春	高尾 泉	安原 照代
山地 靖子	原 貞子	山中 佳子	山城美三子	扶川 治子
益岡 輝実	酒井やすえ	本田千津子	横田 典子	中村 美子
土井 和也	満壽川愛弓	浅川 陽子	藤永 真里	金子 博明
平田 真紀	河見 忠信	遠藤 典子	鴻野千賀子	堀江 孝己
米倉由加里	矢部 知子	大塚 洋子	青木 博美	藤岡千江子
藤山真由里	西岡田さつき	阿部 千明	近藤 美香	美馬 潤子
安友 彰子	佐々 京子	後藤 紀代	沖田 章代	鳩成 広美
林 智也	高柳 由美	大下 富江	桑田 次雄	大野シゲ子
奥田 文子	中川恵美子	折野 茂幸	村部 幸子	四宮 恭子
陶久 房枝	笠原 笑子	三崎美佐代	杉本 妙子	久積富美子
岸 浜子	大和 公代	岡本美津代	小谷ケイ子	西改 俊子
河野多美子	八木 澄江	山崎 真美	駒田 澄子	大本由紀子
服部 弘子	飯田 公子	川辺 光俊	北村 浩子	豊浦 佳子
園尾 淑子	丸岡 茂夫	南 知枝	西野 道夫	洲崎 忠雄

真鍋 洋子	武市めぐみ	吉田 幸代	伊勢 浩美	東川 真美
忠津 安子	河野 雅美	萩原 陽子	由宇 典代	恵内 貞子
小川 幸子	高畑 明美	若木 恭子	笠松八重子	秦 知美
前田 麻子	宮脇 郷子	井上 公子	春藤 真紀	山下弥栄子
米木由美子	春藤 秀子	稲井 知子	鈴木エリ子	田上 洋子
馬居美智恵	片山 芳明	弘田 敏章	秋田 初子	遠藤 清子
多賀 晴代	佐野 陽子	恵美 恵子	岡部ひとみ	笠井 仁美
坪井恵利佳	森本真由美	荒川 佳子	田中 育子	村澤健太郎
小林 忠志	漆原 実沙	福家 佳余	辻 尚子	有井 清

### 篆刻の部

川道 伸弘	吉田 充	蓑毛 真琴	植上富美子	西堀 柳亀
森本 明子	後藤田美智子	横田 雅夫	住友 通瑛	内田美代子
射場 博子	上田 忠敬	乗島 栄子	兼久 幸子	稼勢 瑞穂
井向香名枝	瀬尾 香苗	中山 莉保	中野絵理加	武市 彩伽
石川 翔子				

### 仮名の部

細川真理子	森崎佐和子	福田 玉枝	伊藤 秀子	坂本 敬子
永岡ツタエ	岩田美由希	小西 千恵	詫間 勝子	金子 博明
近藤真千子	西岡 咲子	山西ツタ子	中筋 良江	関根 史子
海賀 健太	板東 準子	贄田美恵子	山本 恵子	川村 重子
杉本 裕子	河野 静江	町田 哲子	石橋 幸恵	沖野 道代
一ツ松真弓	豊岡真由美	宮崎 早苗	高橋加奈子	野上 美紀
岡島 公子	渡辺 正史	遠藤 由子	森 弥生	赤川久美子
佐川 公子	湊 泰子	武田 詩夜	福村喜代子	水口 久枝
根津不美子	柏原 善子	林 孝枝	野口 和子	佐藤 恵美
吉田 幸子	川口 珠枝	楠瀬 恭子	森 裕美子	井上 ちさ
竹内 英子	廣瀬 久代	藤中 英子	松本由希子	背川 章子
皆谷 露子	河野紀代子	井上 彰夫	笠原小夜子	大滝富美枝
加村喜美子	内田 麻紀	藤井三樹子	脇坂 優	田岡佐記子
大塩 幹子	山橋不二子	伊丹 志織	妹尾 敏子	向井 京子
内田美代子	田村富士子	井上 智世	富山 康江	飯尾 清
井上小百合	寺尾 俊通	古谷 和代	向井 境子	三浦 育恵

## 近代詩文の部

朝三 和子	芦谷 后子	石井 益美	糸田川純子	岩崎 麻美
上原三千代	遠藤玻都恵	大井多鶴子	大島 清子	大西 英子
大西千鶴子	小野 幸久	川下小夜子	河野 富子	川端喜美子
川又 敏香	岸 緑	木内 典代	桐生 弘美	栗山 弘子
桑村 清	幸田 康代	児玉 幸子	坂尾 俊一	定本 宏美
庄野ゆかり	武田 淳子	玉城 豪	谷本 清子	出原とし子
鳥井佐知子	中野 美恵	長尾由美子	長原 七与	仁木シモエ
野口 晴世	野田 満代	野田 洋子	橋本 君代	春川 登
引地 美貴	藤本 優子	本浄 貴子	松岡 文子	丸岡 良子
丸田 三恵	森浦 和子	森本知世子	山崎ひとみ	山本 陽子
吉坂希実子	若林 節子	渡邊 亜希	和田 悦代	生野 久美
上田由美子	荒井 弥和	河野 礼子	森岡嗣雅子	森本 佳子
和田 祥功	木田 史子	富永美知子	吉田佐知子	山口 文子
高濱 涉	大津 明美	森本 陽子	田淵 元博	

## 前衛の部

渡辺由紀子	大胡恵里香	里見 真美	阿部 公恵	筒井 美帆
三浦 みや	松浦 弘子	井内 梨加	井上 友理	根東 愛
鎌野 裕子	内田 亜美	大原 理美	梶 雪絵	岡田 直子
川原 綾香	武知 桃子	柏尾美恵子	西岡 珠子	林 浩一
村田 泰輝	島尾 明良	中川 富量	中川 洋子	義富 博正
中川 貴俊	佐藤由紀代	梶川 佳奈		

## デザイン

〔審査員〕 松井 桂三

〔特別出品〕 福井 章 坂本三千一

〔招待〕 斎藤 繁次 坂野美恵子 敷島のり子

〔無鑑査〕 斎藤志津子

〔特選〕 武田 真依 (四国放送社長賞)  
明樂 晴子

〔準特選〕 須藤 政代 四十宮隆志 佐伯 奏美

〔奨励賞〕	吉村 敏嗣	河村 瑠衣	大和美智子			
〔入選〕	林 敏雄	岡村 美幸②	坂田優里菜	近藤 真由	森定 沙希	
	藤野 伶奈	吉田 祐梨	須藤 政代	沢口 功	西林 良枝	
	武田 真依	曾木 拓也	四十宮隆志③	武田めぐみ	東 早紀	
	内村 瞳子	原田 静花	吉岡 一洋	明石 侑希	吉田 菜香	
	四宮 光理	山中菜都美	高橋 真澄	斎藤 剛	岡田 典子	
	近藤 沙樹	清水友里奈	佐伯 奏美	山野 実保		

## 第63回県美術展出品・入選等状況

区分		部門							計
		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	
出品数		56	344	792	23	234	844	85	2,378
人数		54	246	246	22	179	547	68	1,362
入選	率	60.7%	37.2%	19.4%	60.9%	58.5%	43.0%	47.0%	36.6%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入選	26	114	133	9	128	328	32	770
	計	34	128	154	14	137	363	40	870
落選	率	39.3%	62.8%	80.6%	39.1%	41.5%	57.0%	53.0%	63.4%
	落選	22	216	638	9	97	481	45	1,508
招待等	特別出品	1	2	2	1	0	1	2	9
	招待	6	4	20	5	8	38	3	84
	無鑑査	1	0	3	1	2	2	1	10
	賛助出品	1	7	0	1	2	1	0	12
	計	9	13	25	8	12	42	6	115
展示数		43	141	179	22	149	405	46	985

◎特別賞は特選の内数である。

# 徳 島 県 美 術

部門 回数	日 本 画	洋 画	写 真	彫 塑
1	委 員	〔野 間 仁 根 家 永 騏 三 郎〕	委 員	
2	大 栗 旌 折	野 間 仁 根	上 田 備 山	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
3	委 員	伊 原 宇 三 郎	同 上	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
4	委 員	須 田 国 太 郎	同 上	同 上
5	上 村 松 篁	田 村 孝 之 介	小 野 由 行	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
6	西 山 英 雄	伊 藤 繼 郎	川 崎 亀 太 郎	同 上
7	山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤 太 郎
8	池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	〔太 田 三 郎 坂 東 文 夫〕
9	水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10	管 楯 彦	〔鈴 木 信 太 郎 野 間 仁 根〕	同 上	同 上
11	奥 村 厚 一	井 上 長 三 郎	岩 宮 武 二	同 上
12	浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13	小 松 均	藤 井 令 太 郎	同 上	〔辻 東 晋 堂 坂 東 文 夫〕
14	秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15	奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16	同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17	松 尾 冬 青 山	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18	矢 野 鉄 山	池 島 勘 治 郎	同 上	安 田 周 三 郎
19	中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初 太 郎	堀 内 正 和
20	曲 子 光 雄	桂 ムキ 子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21	沢 野 文 臣	伊 谷 賢 藏	同 上	佐 藤 忠 良
22	堂 本 阿 岐 羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23	松 岡 政 信	山 下 大 五 郎	同 上	井 上 武 吉
24	山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25	奥 村 厚 一	斉 藤 真 成	同 上	原 武 典
26	梶 喜 一	島 村 三 七 雄	棚 橋 紫 水	掛 井 五 郎
27	上 原 卓	高 田 誠	棚 伊 藤 知 己	松 村 外 次 郎



# 展 審 査 員 一 覧

美術工芸	書	道	デザイン
鬼塚信之	委員		
同 上	田中白村		
同 上	炭山南木		
同 上	炭山南木・織田子青		
同 上	手島右卿		
[鬼塚信之 新田藤太郎]	同 上		
鬼塚信之	小坂奇石		
明石朴景	辻本史邑		
会田裕宣	織田子青(漢)・出口草露(仮)		
鴨政雄	松井恕流		
近藤悠三	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		
平松宏春	同 上		
同 上	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠		
大西忠夫	荒井天鶴・後藤泰秀・後藤田香石 田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		
明石朴景	同 上		
平松宏明	同 上		
大西忠夫	同 上		
鴨政雄	同 上		
平松宏春	同 上		
内田邦夫	同 上		
山脇洋二	同 上		
槻尾宗一	同 上		
山脇洋二	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴 田中栢翠・富永眉峰		
藤本能道	同 上		
三井安蘇夫	同 上		金野弘
六角穎雄	同 上		大智浩

部門 回数	日本画	洋画	写真	彫刻 (46回まで彫塑)
28	黒光茂樹	中間冊夫	岩宮武二	小島広志
29	松岡政信	島田中章	同同上	保田春彦
30	黒光茂樹	田中忠	同同上	篠崎明雄
31	河合健二	田中	同同上	江口週
32	長谷川青澄	山口長男	〔岩伊〕宮藤武二 〔岩秋〕宮山武太郎	一色邦彦
33	松岡政信	吉井忠	〔岩秋〕宮山武太郎	柳原義達
34	山岸純	小西保文	岩同同上	清水兵衛
35	樋笠数慶	小荻井太淳	同同上	桜井祐一
36	坂口麻沙	吉井山二	同同上	土谷武
37	下田義寛	野見山治	同同上	山本正道
38	同上	須田真一	高同誠上	山清水九兵衛
39	同上	齊藤和	同同上	城田孝一郎
40	下保昭	津高和	〔岩高〕宮田武誠 〔岩高〕原良武	清水良治
41	橋田二朗	小松崎邦雄	奈良宮木田	淀井津夫
42	松本哲男	国領山經人	岩三高	木橋本猛
43	山岸敏夫人	利根穴宏	三高三	山崎谷武
44	平福井爽夫人	赤桜森朔	同同上	土峯田敏
45	福岩穂一	大谷本重	立木島	小建島弘
46	田淵俊融	大馬三	杵同	建綿引道
47	田路義甲	中松樹路	奈良藤江	古恩石井
50	下工那波	中松樹路	奈良藤江	石香浦
51	工那波	中松樹路	奈良藤江	石香浦
52	那須勝一	藤奥田吉	高同	石香浦
53	那須勝一	藤奥田吉	高同	石香浦
54	内田敏隆	佐々木津英	大石同	小日原
55	松山岩	大山大山	同同上	石原
56	山岩	大山大山	同同上	石原
57	岩大	福中	細江	菅米
58	大竹小	福中	江大	菅米
59	竹小	福中	江大	菅米
60	小宮能	福中	江大	菅米
61	宮能	福中	江大	菅米
62	能	福中	江大	菅米
63	雲丹亀利彦	島田井	田沼	林中

美術工芸	書	道	デザイン (37回まで商業美術)
鈴木貫爾	荒井天鶴・後藤泰秀・田中双鶴・田中栢翠		早川良雄
田村耕一	富永眉峰 上		原弘
山脇洋二	同 上		田中一光
浅野陽	同 上		奥野英雄
前田泰次	同 上		灘本唯人
山脇洋二	同 上		大高猛
中村光哉	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・田中双鶴		福田繁雄
山脇洋二	田中栢翠・富永眉峰・新居藍州		福永井隆
田村耕一	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		山城一
同 上	西岡楚峰 上		粟津潔
山下恒雄	荒井天鶴・田中双鶴・田中栢翠・富永眉峰		田中一光
同 上	同 上		長友啓典
浅野陽	荒井天鶴・久保幽香・讚岐泰泉・春藤大耿		亀倉雄策
中村光哉	高原清泉・田中双鶴・田中栢翠・長江清幽		伊藤憲治
浅野陽	新居藍州・西岡楚峰		サイトウ・マコト
山下恒雄	明石春浦・坪井正庵		佐藤晃一
三浦小平二	桜井琴風・黒野清宇		河北秀也
松永勲	大岡皓崖・山田伍雲・西野象山		松永真己
山下恒雄	花田峰堂・小山素洞・東地滄厓		浅葉克三
島田文雄	浅見綿龍・森本妙子・加藤大碩		勝井威暢
大山長利	近藤拱南・東山一郎・中野北溟		五十嵐益輝
山下恒雄	谷村意齋・植村和堂・太田義久		青松永真丸
島田文雄	安原臯雲・池田桂鳳・金子卓義		安西水一
中井貞次	鈴木桐華・西本支星・金子聰松		U. G. サト
栗木達介	尾崎邑鵬・井茂圭洞・大井錦亭		早川良雄
宮田亮平	栗原蘆水・榎倉香邨・種谷扇舟		戸田正寿
松永勲	甫田鷄川・小山やす子・石飛博光		杉浦康平
竹内順一	杭迫柏樹・藤木正次・吉田成堂		秋山藤享
栗木達介	津金孝邦・池田桂鳳・松永暘石		遠中誠平
中井貞次	田中節山・村上俄山・黒田玄夏		小島良一
島田文雄	宮崎葵充・赤江華城・金子卓義		永井正実
竹内順一	星弘道・宮重小蘭・西野象山		新三木健三
宮田亮平	吉川蕉仙・清水透石・作田英嗣		松井桂
島田文雄	岩井韻亭・光宗道子・大井錦亭		
増村紀一郎	伊藤天游・井茂圭洞・田岡正堂		
石川充宏	稲垣菘圃・横山煌平・船本芳雲		
	樽本樹邨・東山一郎・辻元大雲		
	真神魏堂・前島泉洲・長谷川牧風		

# 第16回 放美展記録

会 期 平成20年 5月 2日(金)～ 6日(火)  
会 場 県郷土文化会館

## 日 本 画

〔審査員〕	岡 英彦	西野 和男	土方るみ子			
〔運営委員〕	長谷 寿	中西 芳雄				
〔美協理事〕	中川 健					
〔無鑑査〕	黒田 實					
〔放美賞〕	有井 和子					
〔優秀賞〕	澤 真弓	西岡 ちほ				
〔入 選〕	東 千鶴	岸本 好美	福岡ムメコ	藤村ミチヨ	齋藤 久男	
	安淵 弘信	森本 秀代	井上 弘子	島山 耀子	富永 博子	
	中村 繁子	五宝喜美子	村上 智広	水本 皖次	藤川 千尋	
	中山 茜	豊田 千広	松浦 弘将	鈴木 恵子	植田 忠生	
	土井 寿美	天羽 弘毅	吉本 悦子			

## 洋 画

〔審査員〕	榊田 務	松川 寛	長尾 弘久			
〔運営委員〕	玉田 秀子					
〔美協会長〕	佐野比呂志					
〔美協理事〕	黒崎 志郎					
〔無鑑査〕	青木 幸子	岸本 花子	田中シゲミ	大西 文代		
〔放美賞〕	宮村美智子					
〔優秀賞〕	田中 康子	佐々木公子	鈴木 敬子	藍谷 浩平	坂東 弘子	
	井沢 忠昭	近藤 克子	野口 暁子			
〔入 選〕	尾西 敬子	堀江 幸子	松浦 英子	佐藤 友美	武田 洋子	
	井住香代子	林 敏雄	梅津美砂代	新藤佐代子	小笠原秋子	
	吉村 朋恵	川田 績	福田 友美	北 美智子	為実美恵子	
	中川 清隆	中山 清一	井関久美子	眞鍋たえ子	松下 総子	
	高島田富子	浅山 久子	白草 由子	野口 義仁	島田美奈子	
	山田 智千	前川フキ子	和田 寿子	大村八重子	眞野 尚枝	
	米津 八生	野上 恵子	佐古 秀子	阿部 幸子	伊良原貞子	
	林 静代	大南 芳子	若山 一恵	尾浦 粹子	岩本トシ子	
	東原 綺子	村上 富子	米津 良子	米沢 博	武富 直子	
	藤本真佐子	板東 徹	曾我部清美	小笠 正明	日野 邦恵	
	吉田 玲子	東山 豊	横井嘉世恵	坂東 富恵	松尾 実	
	佐藤 益子	熊谷美智子	島田 純江	宮本 芳美	Vic Millington	
	市原 幸子	丸関 朋子	中本真由美	村川 榮一	平山 里紗	

金川 陽香	細川 遥	後藤 瑞稀	竹原 良亮	土橋 正子
答島 和年	富浦 道子	阿部 昌子	南 清子	中内あい子
篠原 稔	助岡 美穂	天満 洋子		

## 写 真

〔審査員〕	上野 照文	橋本 圭祐	井藤 光章		
〔運営委員〕	櫛淵 魏				
〔美協顧問〕	西條 征二				
〔美協理事〕	荒井 賢治				
〔無鑑査〕	小林 保子	佐々木敏幸	川眞田慶治	久保 英樹	大和 健司
	西野 倫子	石川 徹雄	森住 博	梅本 貞範	森内 昭男
	佐治 孝				
〔放美賞〕	笠井 孝純				
〔優秀賞〕	清水 宗保	笠井 茂治	平澤 昭世	水口登志夫	根ヶ山 治
	今出 弘	川西 明雄	多田 進	正見 晃章	原田 章一
	平野 史子	稲垣 喜修	吉田 久美	西條 圭二	大西 忠
	大西 啓子	加藤 千明	熊谷美智子		
〔入選〕	谷 賢太郎(3)	清水 宗保	高野 作男	吉田 隆之(2)	佐藤 和恵
	藤本 英子(2)	斎藤 幹夫	伊勢 勝彦	平澤 澄子	南 賢治
	三原 弘枝	堤 登勢子(2)	板敷 吉二	阿部 隆雄	阿部 君子
	土橋 成行	一宮 由子	大西 雅子(2)	林 邦光	神野 太三(2)
	根ヶ山美江(2)	根ヶ山 治(2)	岡村 清(3)	山口 正明	佐藤 義雄
	武林 恭史(2)	志摩 育美	大塚 由香	正岡 和士	早淵 茂
	竹谷 政登(2)	竹谷 マリ(2)	笹尾 正夫	久我 千鶴	梶村 鉄次
	庄野 里美	安丸 弘二	福原 敏雄	富加見美枝	伊達 照子
	新居真一郎(2)	新居 奏	渡邊 信二	橋本 勝	播 博文(3)
	米塚 稔	久保 翠	榎本 悟(2)	辻 義徳	内藤クニエ
	四宮 清文	林 広司(2)	八村 澄枝	喜屋田義雄	廣野美知子
	正見 晃章	柳川 信子	木村美紗子	岡村 吉啓(2)	郡 利明
	中川 健次	富岡佳代子(2)	一宮 康人	山本 雅敏(3)	板東 律雄(2)
	辻 絹子	寺尾 享美	増谷 好子(2)	小笠原弘明	原田 章一
	森崎 敦子(2)	松家 安信	平野 史子(2)	稲垣 喜修	佐藤 進(2)
	福本 友恵	原 和夫(2)	幸山 元子	喜多 昌弘(2)	西條 圭二(2)
	堤 信寿	池添 秀信	板東 泰雄	田中 伸廣	野藤 敏美
	野藤みきよ	大西 忠(2)	大西 啓子(2)	中山 良男	佐藤 和恵
	埴淵 照二(2)	長田 貞男	藤家 昇	新居 修(2)	二階 博司
	福井 純子	山下 助信(2)	四宮 正恵(3)	賀川 泰広(2)	佐野 和史(2)
	国見 良幸(2)	片山 朝生	大津 勝治(2)	大塚喜久子	島 昌史
	島 廣幸(2)	熊谷美智子	松尾圭一郎(2)		

## 彫 刻

〔審査員〕	松永 勉	井下 俊作	
〔運営委員会〕	佐藤 隆		
〔美協副会長〕	河崎 良行		
〔美協理事〕	鎌田 邦宏		
〔無鑑査〕	東 光司		
〔放美賞〕	武田亜希子		
〔優秀賞〕	加藤 由恵		
〔入選〕	佐治 孝	市川 友貴	中川 信夫
	寺東 陽子	小田太一郎	米田 陽一
	堀口 香菜	谷 百合	与 吉
			入村友佳子
			増田 有美
			山橋大二郎
			森 拓己

## 美術工芸

〔審査員〕	松下 慶一	多智花佐代子	森 賢一
〔美協理事〕	松下 雄介		
〔無鑑査〕	四十宮年代	田村栄一郎	
〔放美賞〕	大貝 寿子		
〔優秀賞〕	里見 正威	加藤 伴江	木田サチコ
	前野 亮治	鳥井 明子	吉田 陽子
〔入選〕	武田 美子	坂野 敏子	佐治 孝
	横山恵美子	向 紫	大貝 貞雄(2)
	大貝 寿子	八木 智江	前田 道子
	中西 達也	松本 宏	岸本 治美
	西窪 弘	大内 敏男	楠 正陶
	鈴江 正子	岡部 育子	吉成 敏香
	石川多美子	豊川 静子	陶久 敏郎
	西窪美恵子	近藤 康子	美馬 潤子
	久米 和子	鈴江 兼子	秦 信子
	西内 貞二	松原 静子	平尾 静子
	吉田 晃子	小倉カヨ子	山川 恵子
	近藤佐起江	松村奈津美	板東 健三
	森 克江	田村 佳代	青木 壽美
	藤本 芳枝	近藤 川津	松島 典子
	鍋島アヤ子	大本 圭子	下内 良一
	小林 重美	橋本いつ代	矢竹 源久
	松田 翔子	坪内 淳子	小田 正子
	横井嘉世恵	梶原 浩二	小川 光
	山本 志男	九鬼 公香	吉田 緑
			新見 道代
			宮本 真弓
			藤川 恭子
			丸井 明
			清水由利子
			林 恵子
			谷の激流
			近藤富美代
			四宮 千代
			山下壽美代
			相原 良平
			手塚 健一
			櫻間 修子
			石田 艶子
			阿部真由美
			日高 琴美
			左海 千穂
			清水 晶子
			美浪 文(2)
			村川 千代
			槇塚 榮一
			田村 純子
			家形笑美子
			小河原輝榮
			芝崎由紀子
			西尾 初美
			松永 捷子
			宇都宮二美
			和佐 勝代
			前田 一美
			南 泰樹(2)
			真鍋 謙弘(2)
			南 郁代(2)
			高瀬 裕司
			村上 綾子
			吉田 陽子
			谷内 年子
			小林 義治
			保坂 美保
			吉盛 露子
			筒井 節子

武田 潤子	戸島 裕明	木村 秋夫	高浜 玲子	湯浅 芳子
堤 公代	宮本 誠	吉野 由紀	多田 雅子	松本みづる(2)
原 嶋子	松永 卓司	村川 榮一	瀬山 佳枝	長尾 敏子
湯浅 善仁	浅山 義明	阿部まさみ	曾江 司	阿部 巍
山田 繁夫	浜田ミチエ	板東 啓子	宮本 薫	安原多恵子
西 美稚子	大塚 佳奈	河野 仁香	中西 夏美	藤川 愛子
大木 真澄	萬藤 武徳	井(井)工房(寛)判	谷口 治	藤中 教代

## 書 道

〔審査員〕	清水 桂月	薄田 玲泉	浜 佳香		
〔運営委員〕	永松 春苑	松本 清香			
〔美協副会長〕	新居 藍州				
〔美協理事〕	勝瀬 景流	荒井 彭仙	春藤 大耿		
〔放美賞〕	松本 景芳				
〔優秀賞〕	鴻野千賀子	藤永 真里	高橋加奈子	野田 香洋	丸岡 香貞
	石川 翔子	森本真由美			
〔入 選〕	洲崎 忠峰	吉田 靖流	原 貞子	猪井 茂美	辻 光石
	沖野 道代	原田千代子	廣瀬 蕙花	松本 觀翠	藤中 希流
	柏尾 美峰	平田 真紀	片山 保	扶川奈緒子	高松 輝翠
	須藤 華生	佐々木知砂	小野 幸久	川内 成美	臼木 郁登
	町田 千佳	太尾 郁恵	山川 佳奈	森井 青雲	岩田美由希
	本田千津子	西改 俊子	渡部 桂玉	井上 真梨	山崎 真美
	井上 景玄	春川 青超	秋田 初子	桐生 美風	猪尾 直治
	小谷 桂甫	糀 真理子	七田佳奈美	佐藤 翔流	荒井 和苑
	田中 翠雨	大石 康正	川端 康清	坂尾 竜成	森本 成玉
	遠藤 禎子	栗山 弘子(2)	仁木 志香	居和城幸代	青木寿恵子
	藤 治代(2)	岩崎 麻美	松村 雅子	石井 益美(2)	若林 雅節
	岸 緑香(2)	平岡 幽琴(2)	丸田 恵風(2)	遠藤玻都恵(2)	野田 香洋
	丸岡 香貞	野田 満代(2)	佐藤 恵和	角野 李苑	前川 香華
	市原 彩光	武市 彩伽	森田 芳見	尾崎 衣里	兼久 幸子
	乗島 栄子	野口 有香	塩田 龍澄	西村 美保	丸西真菜美
	井向香名枝	瀬尾 香苗	稼勢 瑞穂	遠藤 克典	遠藤スミ子
	荒川 佳子	富永 裕子	久米 香風	石田 理夏	元木 美佐
	坂東 侑哉	安丸 直輝	平石 早映	安芸 瑠子	佐々木菜央
	吉井 友梨	船橋 永	野上 真	稲垣 岬	田中 美里
	小西 結貴	岩戸 敦美	小川 奈三	長野 瞳	村部 幸子
	上野 益泉	岩浅 卯市	森本 宏洲		

# デザイン

〔審査員〕	敷島のり子	四十宮隆志	坂本三千一	
〔運営委員〕	福井 章	北島 豊嗣	田中 一郎	
〔美協理事〕	沢口 功			
〔放美賞〕	福島 拓馬			
〔優秀賞〕	吉村 敏嗣	佐伯 奏美	森本 菜暎	
〔入 選〕	林 敏雄	籠家 弘高	東 早紀	出越 弘也 工藤 遥
	三木由佳里	張 麗媛	福田 晶	岡村 美幸 福岡 由美
	高橋 楓	島本 奈央(2)	安藤 綾沙	坂東 花栄 村上 由香
	湯浅 直人	榊 愛美	橋本 悠美	生川 佳代 大黒香奈美
	松平 仁美	稲垣 友香	坂田優里菜	内村 瞳子 武田 夕佳
	岡崎いづみ	田村 友紀	西 利咲	石川 遥 森 育美
	山野 実保	喜來 詩織	溝下美沙希	山田 悠子 清水麻里奈
	佐野 静香	漆川 千洋	松井智奈美	黒木 真 浦上公美子

## 第16回放美展出品・入選等状況

区分		部門	日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 数			38	201	450	23	214	173	80	1,179
人 数			33	150	182	21	153	143	71	753
入 選	率		68.4%	43.3%	38.0%	65.2%	68.2%	68.8%	56.3%	51.7%
	放美賞		1	1	1	1	1	1	1	7
	優秀賞		2	8	18	1	9	7	3	48
	入 選		23	78	152	13	136	111	41	554
	計		26	87	171	15	146	119	45	609
選 外	率		31.6%	56.7%	62.0%	34.8%	31.8%	31.2%	43.7%	48.3%
	落 選		12	114	279	8	68	54	35	570
無 審 査	審査員		3	3	3	2	3	3	3	20
	運営委員		2	1	1	1	0	2	3	10
	美協役員		1	2	2	2	1	4	1	13
	無鑑査		1	4	11	1	2	0	0	19
	計		7	10	17	6	6	9	7	62
展 示 数			33	97	188	21	152	128	52	671



---

# 各部記録

---

# 日 本 画 部

部 会 長 西 野 和 男

## 年間展望

### ◎第16回放美展（5月2日～6日 県郷土文化会館）

応募点数は38点、昨年より1点減少したが内容的にも優れた作品が多く力作ぞろいだった。厳しい審査の中から入選23点、放美賞1点、優秀賞2点を選んだ

放美賞	「♂&♀」	有井 和子
優秀賞	「春よ、こい」	澤 真弓
〃	「シンフォニー」	西岡 ちほ

### ◎第63回県美術展（10月4日～12日 県郷土文化会館）

応募点数は56点。昨年の応募数から比較すると、5点増えている。毎年、作品も大作が多くなり、質的にも向上しているように感じる。

今回の審査は、京都精華大学准教授で創画会会員の雲丹亀利彦先生にお願いした。

雲丹亀先生は、今までお越しいただいた審査員の中でもきわめて若く、さわやかな印象をもった。審査が終了しての批評も、丁寧でやさしく出品者に接していただいた。人への心遣いを感じる雲丹亀先生の総評は次のようなものだった。

真摯な制作スタイルが感じられる作品が多かった。日本画は感動した題材と向き合うことから始まるが、感動が少ないと作品の充実度も薄い。そして、感受性が強ければ強いほど「鮮度」をもって表現できる。入賞・入選作は作者の狙いや、観点が明確で感動が伝わってくるものが多い。

県美術家協会会長賞の平野真理「翔ける回転木馬」は遊園地を題材にしている。空飛ぶ木馬というのは、非現実的な世界だ。現代社会は住みにくく、気持ちが落ち込むことも多い。逃避ではないが、「現実から少し離れて、心のエネルギーを補いたいな」という思いがあったのかもしれない。回転木馬に乗って、作者が感じた心のやすらぎが見る側にも感じ取れる作品だ。

特選の宮越千佳「過ぎゆく夏の日」のヒマワリには人物が投影され、擬人化されているように感じられた。このヒマワリは妖えんだ。神秘性や生命感が、色のコントラストによってうまく引き出されている。季節が変わり、ヒマワリは枯れるが、命や英気、エネルギーといったものを次世代、後世につないでいこうとする姿が見られる。一步踏み込んだ作者の観点到にひかれた。

選外にも、「この点だけ手を加えたら、もっとよくなるのに」と思える作品がたくさんあった。仕上げの過程では、冷静に、客観的に自分の絵を見つめる時間をもってほしい。そうすれば独りよがりにならず、違った観点での作品作りが可能になるだろう。

特 選 (徳島県美術家協会会長賞)	「翔ける回転木馬」	平野 真里
特 選	「過ぎゆく夏の日」	宮越 千佳
準特選	「宙」	鈴木 恵子
ゝ	「白い鳳仙花」	西村美也子
ゝ	「日曜日」	梶浦 千瑞
奨励賞	「望」	反田 卓
ゝ	「時」	岩脇 恵子
ゝ	「季・刻・瞬」	坂 容子

#### 会員消息 (県展関係は除く。月別)

- 1月 長尾弘子小品展 (徳島県文学書道館) 長尾弘子  
 ハート・アート・イン TOKYO 2008 (第11回エイズチャリティー美術展)「白玉椿」  
 NHC特別顧問芸術大賞受賞 (東京都国立新美術館) 長尾弘子
- 3月 阿南駅前阿南児童公園陶板レリーフ原画作成 長谷壽  
 原画展 (船瀬温泉保養センター) 長谷壽  
 第43回日本墨彩画院展 (香川文化会館) 長谷壽・天羽弘毅  
 第48回日本南画院展 (東京、京都、大阪美術館) 長谷壽・藤井瑞雲  
 第16回空谷記念田野町全国水墨画展 (高知県田野町ふれあいセンター)  
 江上豊溪  
 第99回徳島県女流美術家協会展 (阿波銀プラザ)  
 長尾弘子・土井洋子・柳田一子  
 坂容子 他出品
- 4月 第43回日春展 (東京銀座松屋) 橋本正弘・岡英彦・土井洋子  
 岡英彦展 (眉峰ギャラリー) 岡英彦
- 5月 阿南市制50周年記念第47回阿南市美術展 (阿南市文化会館)  
 長谷壽・津田津保三・天羽弘毅  
 平成20年度阿南文化賞受賞 橋本正弘  
 第48回溪生水墨画展 (阿波銀プラザ) 横田谿秀・江上豊溪  
 岡英彦展 (阿波和紙伝統産業会館) 岡英彦  
 第12回朱泥会展 (徳島市シビックセンター) 長尾弘子 ほか会員30名出品

- 6月 第40回珀雲社展（阿波銀プラザ） 長谷壽・藤井瑞雲・吉田満子  
白河邦子
- 第37回仙台・徳島文化交流女流美術展（仙台メディアテーク）  
長尾弘子ほか出品
- 9月 第100回記念徳島県女流美術家協会展（県郷土文化会館）  
長尾弘子・土井洋子・柳田一子  
坂容子 ほか出品
- 第40回石井美術の会作品展（県郷土文化会館） 中川健
- 9th EARTH ART EXHIBITION IN KOBE（芸術からの心の復興）  
（兵庫県立美術館ギャラリー） 長尾弘子
- 10月 橋本正弘展（脇町うだつの町並み「吉田邸」） 橋本正弘
- 第40回日展（東京国立新美術館） 橋本正弘（無鑑査出品）・岡英彦
- 第9回美波町由岐地区文化祭展（由岐ポッポマリン） 長谷壽
- 女性芸術家美術展 MINERVA2008（横浜ランドマークプラザ）  
長尾弘子
- 11月 第37回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館） 長谷壽・津田津保三・天羽弘毅
- 第9回阿南市福井町文化祭作品展 長谷壽
- 08名士名流作品展（大阪阿倍野近鉄） 土方るみ子
- 第23回石井町文化祭展（石井中央公民館） 中川健
- 12月 美波町日和佐地区文化祭展 坂本久江・白河邦子・西口光代  
南清子
- 第37回歳末チャリティー色紙・作品即売展（徳島そごう）  
長尾弘子・岡英彦・土方るみ子
- 京都展千年の雅（京都府京都文化博物館） 長尾弘子

# 洋 画 部

部 会 長 梶 田 務

## 年間展望

◎第63回県美術展 (10月4日(土)～10月12日(日) 徳島県郷土文化会館)

応募作品の総数は344点で、前回より44点の増、出品者数も246人と約30人増えた。入選点数は128点、入選率37パーセントという厳選となった。30パーセント台の厳しい入選率を緩和するため、応募作品の大きさを、上限を60号、S型は30号と制限し、2年続いて入選率を40パーセント台に乗せたが、本年はまた37パーセントという結果となった。

審査員には、独立美術協会の桜井寛先生をお迎えした。午前9時30分から午後3時過ぎまで丁寧に審査に当たっていただいた。

なお、入賞作品数は、特選3点(内1点は県知事賞)、準特選6点、奨励賞5点の計14点である。

審査評の一部を紹介する。

「初めは全体的に何となく類型的で元気がないような気がしたが、見ているうちに非常に個性的でこちらの気持ちにぐっと入ってくる作品が多かった。ウシや阿波踊りなど地域性を感じさせる作品も多く、都会で味わえない素朴で感情的な絵もあった。

審査に当たっては、まず個性的であること、そして自分のやりたいことを戸惑うことなくストレートにぶつけていると感じられる作品に注目した。

県知事賞の南城ミツ子「ころも・はずむ」は手慣れた技術を駆使した作品。色の配合や構図、組み立てがしっかりできていて、人体の体の動きが総合的に画面を流動的に見せ、踊りの雰囲気を見事に描き出している。

特選の野口暁子「蓮根畑の冬」は、夏が去り、ハスの葉が次第に枯れていく時間的な感じをうまくとらえた。少し寂しげな雰囲気に心が打たれる。色のコントラストがもう少し見えると、なお良かっただろう。

特選の玉田秀子「悲しみは癒えることなく」は、コンクリートの建物がそびえる都会、また群衆の中にある人間の孤独をうかがわせる。色の数も抑えられ、モノクロとわずかな黄色に絞ってしっかりと表現している。

似た傾向の絵が少なからずあったことは、県展として今後考えてみなければならない問題だろう。もっと自分の絵を描いてほしい。絵が自分の後から来るのではなく、自分より先に歩いていくような、しゃべってくれるような、そんな絵を描いてほしい。」

今回も、作品の大きさを上限60号と定めたことで入選点数を130点前後と算定した。(実数128点) その結果、前回同様、入選者数の増加は、好感をもって迎えられているようである。

しかし、ここ数年の傾向として審査員によって応募作品の増減がかなり顕著に見られるので、こうしたことも今後の課題として考える必要がある。その他、審査の流れ、入落作品の確認と保管、展示など、よく検討して第64回展に臨みたい。

#### ◎第16回放美展 (5月2日(金)～5月6日(火・振替休日) 徳島県郷土文化会館)

洋画部門の応募者は150人、点数は201点で、前回に比して17点の増。入選は87点で入選率40パーセントと例年にない厳選となった。壁面の都合で展示されなかった作品も遜色のない好作品で不運としか言いようがない。更に精進されて応募されるようお願いしたい。

受賞作品の審査評の一部を紹介する。

「放美賞の宮村美智子さん「憩い」は人物と猫を巧みに配置して動きのある構成と色彩の対比で独自の世界を表現している。優秀賞の野口暁子さん「蓮根畑Ⅰ」は茶褐色を主調に、ふるさとの風景を伸びやかに表現して味わい深い。藍谷浩平さん「ガスタワーの風景」は明快で強い直線と色彩が魅力。坂東弘子さん「母」は母への深い思いが一筆一筆にこめられた好作品。井沢忠昭さん「少女B」は平面化した処理で画面にうまく収めている。近藤克子さん「瀬戸内の漁村Ⅰ」はブルーグレイの色調で漁村のもつ雰囲気表現している。鈴木敬子さん「道」は杉木立の暗い緑と新緑の対比を細やかな筆致でよくとらえている。田中康子さん「子牛」は二頭の組み合わせが面白く、黒い色が効果的につかわれ、存在感がある。佐々木公子さん「山門」は対象を正面からとらえた構成で生氣あふれる色感が好ましい。」

#### ◎第22回洋画部会員展 (5月22日(木)～5月25日(日) 徳島県郷土文化会館)

ここ数年、出品数が減る傾向にあり、できるだけ多くの会員の参加を得るため、作品の号数を10号以上と、旧要項にもどした。今回の出品総数は91点、各作品とも力作ぞろいで見ごたえのある展覧会になった。会員相互の研究・交流の場として、更なる充実を図り、県民の方々から愛好される展覧会になるよう念願してやまない。会員の皆様のご協力を切にお願いしたい。

なお、会期中の5月24日には、会員相互の親睦を深める懇親会をホテルグランドパレス徳島で開催した。当日、運営委員の異動や会計報告、今後の会員展の在り方などについて意見を交換、終始なごやかなひとときを過ごした。

## 会員消息

(県展・放美展を除く。五十音順。)

- 青木 幸子 第31回八紅展(阿波銀プラザ)、第23回国民文化祭展(茨城県近代美術館)、洋画部会員展(郷文)
- 東 紀美子 洋画部会員展(郷文)、徳島アート21第6回展(阿波銀プラザ)、つくしの会・波の会合同絵画展・第37回阿南市文化祭美術展(阿南市文化会館)
- 天田 弘之 第58回モダンアート展(東京都立美術館)、同京都展(京都市美術館)、第27回関西モダンアート展(大阪府立現代美術センター)、第41回モダンアート徳島支部展・第20回燎4人展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展・第40回石井美術の会展(郷文)
- 阿部 昌子 第39回土曜展(徳島市シビックセンター)、洋画部会員展・第64回青美展(郷文)
- 井沢 忠昭 第26回青彩美術展(徳島市シビックセンター)、第37回阿南市文化祭美術展(阿南市文化会館)、加茂谷文化祭(加茂谷公民館)
- 伊勢 浩章 徳島アート21第6回展(阿波銀プラザ)、15人展(ヨンデンプラザ徳島)、洋画部会員展・平和美術展(郷文)、月曜会展(ギャラリー喫茶ファンファーレ)、川内町民文化祭(町民会館)
- 乾 繁春 第68回美術文化展:会員出品(東京都立美術館)、第68回関西美術文化展(大阪市立美術館)、第26回美術文化四国支部松山展(愛媛県立美術館)、第16回フィナル美術文化22人展(東京銀座アートギャラリー)、NHK高松文化センター絵画美学展:賛助出品(高松市立美術館)、NHK徳島文化センター第1回徳島絵画美学展:賛助出品(阿波銀プラザ)
- 宇高 桂子 第62回女流画家協会展(東京都立美術館)、第99回徳島県女流美術家協会展(阿波銀プラザ)、洋画部会員展・第100回記念徳島県女流美術家協会展(郷文)
- 越久 高照 第64回青美展・洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展(郷文)、第23回藍美展(藍住町福祉センター)
- 大津 憲文 つくしの会・波の会合同絵画展・第37回阿南市文化祭美術展(阿南市文化会館)、洋画部会員展(郷文)
- 大塚 政孜 市場まちかど20景展(阿波市阿波図書館)、いちばまちかど展(笠井米穀店店頭)、洋画部会員展(郷文)
- 大西 文代 第26回青彩美術展(徳島市シビックセンター)
- 大西 道夫 第58回モダンアート展(東京都立美術館・京都市美術館)、第40回モダン

- アート徳島支部展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）、小松島市美術展（小松島市中央公民館）、第28回道草展（喫茶やまなみ）
- 大西利津子 春季徳島二紀展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、第23回徳島二紀展（県立近代美術館）
  - 大野 文雄 阿南市加茂地区文化祭（加茂コミュニティセンター）
  - 岡 多美子 徳島市芸術祭美術展：審査員出品・第99回徳島県女流美術家協会展（阿波銀プラザ）、第37回仙台・徳島文化交流美術展（せんだいメディアテーク）、しあわせのひとひら岡多美子個展（小品・ポヌール、ピエス 吉野川市）、第100回記念徳島県女流美術家協会展・徳島県女流美術家協会第100回展記念大賞展（郷文）
  - 岡田 君代 洋画部会員展・平和美術展・第64回青美展（郷文）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
  - 岡田 守 第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）
  - 加賀谷愛美 第62回女流画家協会展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）
  - 賀木 道子 第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展（郷文）
  - 片山 富市 第74回旺玄会展：会員出品（東京都立美術館）、第74回旺玄会巡回大阪展：会員出品（大阪市立美術館）、第12回旺玄会東四国支部展（阿波銀プラザ）
  - 河田 安市 第40回日展：会友入選・第84回白日展：会員出品（国立新美術館）、地方展出品
  - 河野 公子 第68回美術文化展（東京都立美術館）、美術文化四国支部展（愛媛県立美術館）、洋画部会員展・第64回青美展・平和美術展（郷文）、15人展（ヨンデンプラザ徳島）
  - 河本多恵子 徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）、国府文化祭（国府町コミュニティセンター）
  - 岸本 花子 徳島市芸術祭美術展・洋画部会員展（郷文）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
  - 木谷 弘 第68回美術文化展（東京都立美術館）、第68回関西美術文化展（大阪市立美術館）、第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）、木谷 弘個展（ギャラリー喫茶ファンファーレ）
  - 黒崎 志郎 第61回示現会展：会員出品（国立新美術館）、同巡回徳島展（郷文）、第96



- 回日本水彩展：審査員出品（東京都立美術館）、第40回日展（国立新美術館）、洋画部会員展（郷文）、第39回示現会徳島支部展（阿波銀プラザ）
- 答島 久子 第47回阿南市美術展・つくしの会・波の会合同絵画展・第37回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、洋画部会員展（郷文）、第1回羽ノ浦公民館フェスタ（羽ノ浦公民館）
- 後藤ユリ子 第68回美術文化展（東京都立美術館）、第68回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化四国支部展（愛媛県立美術館）、美術文化徳島支部展（阿波銀プラザ）、洋画部会員展（郷文）
- 後藤田仁一 第68回美術文化展：会員出品（東京都立美術館）、第68回関西美術文化展：会員出品（大阪市立美術館）、第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）
- 近藤 克子 第74回東光会展・第96回日本水彩展（東京都立美術館）、第100回記念徳島県女流美術家協会展・ふるさとを描き遺す会展（郷文）
- 斎藤 靖子 第58回日本版画院展：会員出品・同山陰巡回展（倉吉市）、第100回記念徳島県女流美術家協会展・ふるさとを描き遺す会展（郷文）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）、二人展（東かがわ市）
- 佐藤 敬子 洋画部会員展・第64回青美展（郷文）、第1回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 佐野比呂志 第45回関西独立展：無鑑査出品（大阪市立美術館）、徳島市芸術祭美術展：審査員出品・第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第6回展：賛助出品（阿波銀プラザ）、徳島新聞カルチャー展：指導者出品（郷文）
- 四宮 久子 第62回二紀展（国立新美術館）、神戸二紀展（神戸、原田森ギャラリー）、徳島二紀展（阿波銀プラザ）
- 志摩 政照 洋画部会員展（郷文）、吉野川市総合美術展・第30回記念鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 下時次郎秀臣 第84回白日会展：会員出品・第40回日展：入選出品（国立新美術館）、白日選抜展（近鉄阿部野美術画廊）、水無月会展（銀座相模屋美術画廊）、現代洋画秀作展（大阪梅田画廊・郷文）、第30回記念鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 島上 二郎 第74回東光会展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展・洋画部会員展（郷文）
- 島田美奈子 徳島市芸術祭美術展・徳島新聞カルチャー展・洋画部会員展（郷文）、第

- 31回八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 鈴木 敬子 洋画部会員展（郷文）、アトリエM展（阿波銀プラザ）、吉野川市総合美術展・第30回記念鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、第84回白日展（国立新美術館）
  - 住友 義彦 第1回羽ノ浦町公民館フェスタ（羽ノ浦町公民館）、宝田町公民館祭（宝田町公民館）
  - 曾我部秀子 洋画部会員展（郷文）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
  - 田岡 莊二 中央公民館展（徳島市中央公民館）
  - 武田 洋子 吉野川市・阿波市絵画交流展（吉野川市文化研修センター）、第5回生きがい作品展・洋画部会員展（郷文）、東祖谷文化まつり（歴史資料館）、三好市文化まつり（辻小）三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）、三好郡・市教職員春風展（たばこ資料館）
  - 田中シゲミ 徳島市芸術祭美術展：無鑑査出品（徳島市シビックセンター）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）、JA徳島北文化交流展（JA徳島北事業所）、洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展（郷文）
  - 田淵 浜子 第74回東光展（東京都立美術館）、東光会徳島支部展（郷文）
  - 玉田 秀子 徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、徳島アート21第6回展・第31回八紅展（阿波銀プラザ）、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）、洋画部会員展（郷文）
  - 為実美恵子 三好市文化まつり（ヨンデンプラザ池田）
  - 露口 敏幸 第5回生きがい作品展・洋画部会員展（郷文）、第67回世代美術展（徳島市シビックセンター）
  - 唐渡 覚 平成20年阿波市文化協会総合文化祭（市場文化協会）
  - 中辻奈美枝 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）、第37回阿南市文化祭美術展・第47回阿南市美術展・つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
  - 中村 晴代 第26回青彩美術展（徳島市シビックセンター）
  - 長尾 弘久 洋画部会員展（郷文）、長尾弘久版画展（東京・ギャラリー青羅）、徳島アート21第6回展・第6回徳島版画展（阿波銀プラザ）
  - 南城ミツ子 第74回東光展：会員出品（東京都立美術館）、東光会徳島支部展・洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展：招待出品（郷文）
  - 仁木 幸子 洋画部会員展（郷文）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
  - 西川 敬子 第99回徳島県女流美術家協会展・徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）、

第100回記念徳島県女流美術家協会展（郷文）

- 西川 周三 徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）
- 西川 照美 第12回アトリエ・バクグループ展（阿波銀プラザ）
- 西崎 志帆 平和美術展（郷文）
- 二條 均 洋画部会員展・第64回青美展（郷文）、板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 野上 恵子 徳島市芸術祭美術展・洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）、八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 野口 暁子 洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）
- 野村 雅子 洋画部会員展（郷文）、徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）、つくしの会・波の会合同絵画展（阿南市文化会館）
- 林 康太郎 第68回美術文化展（東京都立美術館）、第68回関西美術文化展（大阪市立美術館）、洋画部会員展（郷文）、美術文化徳島グループ展（阿波銀プラザ）
- 林 静代 第12回アトリエ・バクグループ展（阿波銀プラザ）
- 林 信夫 洋画部会員展（郷文）
- 日野 邦恵 第74回東光展・第96回日本水彩展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）
- 平田スミコ 第62回女流画家協会展（東京都立美術館）、洋画部会員展（郷文）、第10回MOB展（高知市文化プラザ）、一宮文化祭（一宮コミュニティセンター）
- 平松 智子 阿波市・吉野川市絵画交流展・第30回記念鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、第40回石井美術の会作品展・第64回青美展（郷文）
- 福富 正二 洋画部会員展（郷文）
- 福本 武子 第74回東光展（東京都立美術館）、東光会支部展・洋画部会員展（郷文）
- 藤丸 家栄 徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）、二人展（リブアート）、三好市文化祭：協賛出品（ヨンデンプラザ池田）
- 福良 哲子 徳島市芸術祭美術展：招待出品・洋画部会員展・徳島新聞カルチャー展（郷文）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加茂谷公民館）
- 藤井 香世 第68回美術文化展（東京都立美術館）、第68回関西美術文化展（大阪市立美術館）、美術文化徳島支部展（阿波銀プラザ）、月曜会展（ギャラリー喫茶ファンファーレ）
- 藤崎 恭子 徳島アート21第6回展（阿波銀プラザ）、あすなろ絵画展（ギャラリー花杏豆）

- 藤本 晴子 美術作品集「EPMOArt－芸術の彩」国内始め インドネシア・東南アジア等へ収蔵
- 堀江 幸子 吉野川市・阿波市絵画交流展（吉野川市文化研修センター）、洋画部会員展・第64回青美展（郷文）、第9回ピーコック・サークル油彩展（徳島市木工会館）、第35回鴨島文化サロン展（本郷ビル）
- 堀切 薫子 第26回青彩美術展（徳島シビックセンター）、第23回藍美展（藍住町社会福祉センター）
- 柘田 務 退任記念柘田務画展（四国大学交流プラザ）、東光会徳島支部展・洋画部会員展・徳島市芸術祭美術展：審査員出品（郷文）、第3回パルの会展（ヨンデン・エネルギープラザ阿南）
- 松川 寛 第40回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第58回モダンアート協会会展（東京都立美術館）、第58回モダンアート京都展（京都市立美術館）、第18回関西モダンアート展（大阪府現代美術センター）、徳島新聞連載小説「庚午の渦」の挿し絵担当（9月まで約300回）、第20回燎4人展（阿波銀プラザ）
- 真野 孝彦 吉野川市・阿波市絵画交流展・第30回記念鴨島美術クラブ展（吉野川市文化研修センター）、レインボークラブ展・神山町道の駅展（神山道の駅画廊）、レインボークラブ展（神山温泉画廊）、阿波市油彩展（阿波町図書館）、第64回青美展（郷文）、ボルヌール・ピエス展（鴨島町レストラン、ボルヌールピエス画廊）
- 馬淵 博子 洋画部会員展（郷文）
- 三沢 尚子 関西水彩画展（大阪市立美術館）、第100回記念徳島県女流美術家協会展・洋画部会員展（郷文）、第20回燎4人展・第4回それいゆ水彩画展（阿波銀プラザ）
- 三谷多美子 洋画部会員展（郷文）、レモンの会展（貞光ゆうゆう館）
- 三谷ミヤ子 徳島市芸術祭美術展：招待出品・洋画部会員展（郷文）、第2回東光展小品部（東京都立美術館）、第31回八紅展（阿波銀プラザ）、東富田文化展（東富田コミュニティセンター）、第4回三谷ミヤ子個展（喫茶ギャラリー・グレイス）、年賀版画展（相生森林美術館）
- 峯 幸子 県女流美術小品展・む・アート展（阿波銀プラザ）、第37回仙台・徳島文化交流美術展（せんだいメディアテーク）、第100回記念徳島県女流美術家協会展（郷文）
- 三好 初子 第74回東光展：会員出品（東京都立美術館）、洋画部会員展・東光会徳島

支部展・第100回記念徳島県女流美術家協会展（郷文）、徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、第99回徳島県女流美術家協会展（阿波銀プラザ）、第37回仙台・徳島文化交流美術展（せんだいメディアテーク）、第23回藍美展（藍住町福祉センター）

○山口 明美 第31回八紅展（阿波銀プラザ）

○山口 和子 第26回青彩美術展（徳島市シビックセンター）

○山口美千代 第64回青美展・洋画部会員展（郷文）

○米沢 博 徳島市芸術祭美術展（郷文）、第21回健康福祉祭美術展鹿児島大会（黎明館）

# 写 真 部

部 会 長 櫛 淵 魏

## 年間展望

### ◎第63回県美術展（10月4日～12日 県郷土文化会館）

今回応募点数は前年とほぼ同数の792点であった。出品者数は246人。審査員には日本写真家協会会長、東京工芸大名誉教授、田沼武能先生をお迎えした。審査の結果、特選4点、準特選9点、奨励賞8点、入選133点が選出された。審査後の講評では「想像以上に全体のレベルが高い。写真というものはうまく撮れないから面白い。もっとうまく撮れるんじゃないか、と思う気持ちや気力を持つことが大切だ。そこから好奇心や行動力が生まれ、結果的にいい作品へとつながる」とのアドバイスをいただいた。

特 選	「時空間」	阿部 啓三 (特別賞)
〃	「夏の記憶」	西野 倫子
〃	「幸せな時」	廣野美知子
〃	「親子でゴール」	大津 勝治
準特選	郡 利明・福井 純子・平野 史子・伊達 照子	
	宮本 幸治・中野 久世・神野 太三・櫛淵 紳哉	
	森住 博	

### ◎第16回放美展（5月2日～6日 県郷土文化会館）

応募点数は450点で前年より74点の増であった。この中から放美賞1点、優秀賞18点、入選152点が選ばれた。審査員は上野照文、井藤光章、橋本圭祐の三氏が担当した。

放美賞	笠井 孝純	
優秀賞	清水 宗保・笠井 茂治・平澤 昭世・水口登志夫	
	根ヶ山 治・今出 弘・川西 明雄・多田 進	
	正見 晃章・原田 章一・平野 史子・稲垣 喜修	
	吉田 久美・西條 圭二・大西 忠・大西 啓子	
	加藤 千明・熊谷美智子	

### ◎県美協写真部撮影会（6月22日）

源氏物語千年の行事が繰り広げられている京都への撮影会を委員会で決定し会員を募

集した。当日は雨が降ったり止んだりの生憎の天気のため、参加人数は33名であった。

阿南6時出発。沖洲マリンターミナル経由徳島駅7時10分発。京都10時着、東本願寺前で解散。同15時30分集合出発で各自梅雨空の京情緒を撮影。全員無事18時過ぎ徳島着で撮影会を終了した。会の開催には今回も次の各委員にお世話願った。

三木 晴夫・井上 憲治・井藤 光章・古井 謙吉・林 敏彦

## 会員の訃報

1月15日、安長剛氏が逝去されました。氏は県展招待作家、県美協理事、また、写真集団「風」主宰として長年に亘り県写真界のリーダーとして多大の功績を残されました。享年75才。心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 各分野での会員の活動状況 ～中央展・個展・団体展など～

◎第64回朝日写真展（4月18日～24日 大阪富士フォトサロン）

入 選：関口つとむ

◎全日本写真展2008「現代を撮る」（8月5日～11日 東京新宿ニコンサロンほか）

入 選：関口つとむ

◎第93回二科展写真部門（9月1日～15日 東京国立新美術館）

会 員 出 品：荒井 賢治

会 友 出 品：大和 健司(会友努力賞)・森住 博・西條 征二

公 募 入 選：佐々木敏幸・四宮 正恵・志摩 育美・池添 秀信・土橋 成行  
板東 律雄・西野 倫子・平野 史子

◎第55回阿波踊り写真コンクール（9月20日～30日 阿波踊り会館）

特 選：板東 律雄

準 特 選：西野 倫子

入 選：平野 史子

◎第15回朝日四国写真展（11月16日 徳島にて審査）

徳島県知事賞：根ヶ山 治

特 選：久保 英樹

奨 励 賞：井上 憲治

入 選：吉村 敏嗣・関口つとむ・古井 謙吉・宮本 幸治・林 敏彦  
船越 正文・川真田慶治・佐治 孝・橋本 圭祐

◎第42回日本光画会「光」展（1月11日～13日 徳島市シビックセンター）

会 員 出 品：佐藤 義雄

会 友 出 品：内田 忠秋

◎第23回全日本写真連盟県本部展（2月1日～3日 徳島市シビックセンター）

県本部委員長：林 敏彦

出 品 者：三木 晴夫・三木 理司・森 賢一・森住 博・吉村 敏嗣  
阿部 啓三・栗田ふさえ・井藤 光章・井上 憲治・上野 照文  
内田 忠秋・大津 勝治・大西 啓子・川真田慶治・久我 千鶴  
櫛淵 魏・西條 征二・佐治 孝・佐藤 義雄・伊達 照子  
根ヶ山 治・根ヶ山美江・野藤 敏美・野藤みきよ・橋本 圭祐  
林 敏彦・姫田 慎治・藤川 光昭・古井 謙吉

◎第39回ナルトぴんぼけクラブ写真展（2月8日～10日 鳴門市立図書館）

会 長：賀川 泰廣

出 品 者：賀川 泰廣・木田 英之・小川 勝・元木 強・武地 雅

◎日本風景写真協会第3回徳島支部展（3月4日～9日 NHK徳島放送局）

出 品 者：岩崎 英昭

◎第13回写団「阿波っ子」写真展（3月7日～9日 徳島市シビックセンター）

出 品 者：川口 進（会長）

◎第9回ニッコールクラブ徳島支部写真展（4月12日～14日 徳島市シビックセンター）

支 部 長：櫛淵 魏

出 品 者：阿部 啓三・井藤 光章・川真田慶治・櫛淵 魏・西條 征二  
佐治 孝・佐藤 義雄・中川 定典・根ヶ山 治・根ヶ山美江  
古井 謙吉・堀口 幸男・増田 寿・三木 晴夫・三木 理司

◎第25回サンカ会写真作品展（4月12日～14日 徳島市シビックセンター）

会 長：森内 昭男

出 品 者：内田 忠秋・田中 伸廣・森内 昭男

◎第7回大貝久義個展「四季の思い出写真俳句集」

（4月12日～30日 徳島市シビックセンター）



◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」(4月12日～30日 徳島市シビックセンター)

会 長：大貝 久義

◎第8回UNIT-D写真展 (4月25日～29日 阿波銀プラザ)

代 表：上野 照文

出 品 者：上野 照文・橋本 圭祐・林 敏彦・井上 憲治・多川 静守  
柳本 正・野口 佳一・増田 寿・堀口 幸男・根ヶ山 治

◎英藍アルテ写真展 (5月16日～18日 阿波銀プラザ)

出 品 者：上野 照文・藤川 光昭

◎第31回写真同人「炎」作品展 (6月6日～8日 徳島市シビックセンター)

代 表：西條 征二

出 品 者：森 賢一・大和 健司・阿部 啓三・荒井 賢治・井藤 光章  
井上 憲治・川真田慶治・櫛淵 魏・佐藤 義雄・西條 征二  
佐治 孝・田村 泰弘・伊達 照子・土橋 成行・中川 定典  
野口 佳一・林 敏彦・古井 謙吉・堀口 幸男

◎第14回徳島ライカクラブ写真展 (6月20日～22日 ヨンデンプラザ徳島)

会 長：武内 亨

出 品 者：武内 亨・後藤 能大・山田 勝二

◎第5回二科会写真部徳島支部展 (6月18日～23日 徳島市シビックセンター)

支 部 長：大和 健司

出 品 者：荒井 賢二・森住 博・大和 健司・西條 征二・池添 秀信  
石川 徹雄・梅本 貞範・佐々木敏幸・四宮 正恵・志摩 育美  
土橋 成行・西野 倫子・播 博文・板東 律雄・平野 史子  
藤川 光昭・増田 寿・森内 昭男・柳川 信子

◎第2回阿南デジタル写真展 (7月7日～11日 よんでんエネルギープラザ阿南)

代 表：林 敏彦

出 品 者：木田 英之・田村 泰弘・伊達 照子・林 敏彦・森 光

◎矢部弘子写真展「私の美術館とひろしま」(8月1日～30日 藍住町立図書館)

◎第22回徳島花を写す会写真展 (8月22日～24日 徳島市シビックセンター)

代 表：佐藤 義雄

出 品 者：内田 忠秋・久保 英樹・佐藤 義雄・吉村 敏嗣

◎第48回写楽会写真展（9月26日～29日 徳島市シビックセンター）

会 長：櫛淵 魏

出 品 者：櫛淵 魏・上野 照文・川真田慶治・櫛淵 紳哉・関口つとむ

中川 定典・古井 謙吉

◎第8回大貝久義個展「俳句歳時記季節のきらめき」

（10月12日～31日 徳島市シビックセンター）

◎徳島風景写真協会「自然の四季風景写真展」(10月15日～20日 徳島市シビックセンター)

会 長：大貝 久義

◎第3回写真同人「光」写真展（11月24日～28日 よんでんエネルギープラザ阿南）

会 長：林 敏彦

出 品 者：木田 英之・伊達 照子・田村 泰弘・林 敏彦・三木 晴夫

森 光

◎第38回日本リアリズム写真集団徳島支部展「写真歳時記」

（11月28日～30日 ヨンデンプラザ徳島）

支 部 長：木田 英之

# 彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

## 年間展望

◎第63回県美術展（平成20年10月4日～12日 県郷土文化会館）

今年の審査員として東京芸術大学准教授の林武史先生にお願いした。今年の彫刻部門出品総数は23点あり、そのうち入賞・入選作品には14点が選ばれた。総数で前回に比べて2点少なくなっている。全国的にも彫刻は公募展への出品が減る傾向があり、県展でも同じようなことで気になる。しかし出品作品は多様で力作であり、新しい感性を見せる作品も現れている。少数の中にも光るものが見えるのは心強い。今回の審査においては、林先生にはどの作品も時間をかけて見ていただき、入選入賞作品を決定した。また審査終了後に出品者に対して個々の作品についてのアドバイスも丁寧にいただいた。

審査評としては「出品作には創作意欲が感じられる作品が多く、テーマ設定もバラエティーに富んでいた。審査のポイントにしたのは、大きく2つある。1つは素材といかに格闘し、その良さをうまく引き出すことができているか、2つめは、作品を通じて自分の世界観をはっきりと表現できているかどうかという点である」と話された。

「特選（県教育委員会教育長賞）に選ばれた三原敏文さんの“海風”は、家族愛というオーソドックスなテーマだが、全体から受ける温かみはもちろん、空間の中に新しい空気を作り出す「彫刻力」の素晴らしさを感じた。さらに子どもの肩車をしている父親の足の広げ方など、構成している1つ1つが絶妙なバランスで、伝えたい世界観を表現している。また、木の良さをうまく生かし、古代彫刻にも通ずるような造形もインパクトがある」との評価をいただいた。三原さんはこれまで石彫を多く制作しているベテランの彫刻家であるが、木彫の人物像を発表するのは珍しい。今までと違った新しい方向の作品として今後の展開が楽しみである。

「準特選の山橋大二郎さんの作品“静寂・しじま”は、女性の立像だが、女性の力強さが強調され、生きていくことの希望を感じる。太い腰、胸の出っ張りなど骨太にデフォルメされていて人体の形としては大げさだが、作り手のメッセージが彫刻というものを借りて、ひしひしと伝わってくる」との評価であった。山橋さんは人体彫刻を毎年出品している若手作家である。具象彫刻を真剣に追求している姿が見てとれる仕事ぶりであった。地道な分野であるが、次への発展を期待したい。

次に「同じく準特選に選ばれた高丸公相さんの“蜃気楼の匣・しんきろうのはこ”は、

でこぼこした発泡スチロールのようなものにポリエステルでオブラートをかけ、蜃気楼という実体のない不確かなものを、面白さや、あやうさなど作品から受ける印象で、うまく表現している。台座を全体に合うように工夫すれば、さらによかった」と述べられた。高丸さんは継続してアクリルの塊材を使用している作家だ。いつも特異な表現をして不思議な空間作りをしている。めずらしい技術でもって、見る者を引きつける力のある作品なのでこれからも頑張ってもらいたい作家である。

全体の評としては「彫刻の審査をしていると、何を作りたいのか伝わってこない作品を見かけることがある。彫刻は、作り手と見る人の間のメッセージが大切である。なぜ作るか、どうやって作るか、作ったらどうするかなどを考え、愛情を持って創作に励めば、きっといい作品が生まれると思う」と話された。その他の入賞作品は奨励賞として中川伸一さんの“Naturalist”と東光司さんの“刻まれた風景2008”が選ばれた。2人とも経験の豊かな彫刻家で独自の世界を表現した力作を出品し好評を得ていた。

#### ◎第16回放美展（平成20年5月2日～6日 県郷土文化会館）

今回の彫刻部門出品数は前回より5点多い23点であった。そのうち具象作品が16点、抽象作品が7点であった。審査では素材の生かし方や、自分の主張をいかにして立体作品として表現しているかなどの点を重視して審査した。

放美賞を受賞した武田亜希子さんの“星のステップ”は審査評で「鉄板を使ったリズムミカルな構成で、空間に自分の詩を奏でているかのような作品だ。どの角度から眺めてもバランスが良く取れており、三次元的感覚に優れている」と評され、放美賞に選ばれた。虚の空間に浮かぶ曲線が面白い動きを見せる秀作であった。優秀賞には加藤由恵さんの“春の息吹”が選ばれた。この作品については「均整のとれた全身の人体が素晴らしい。肢体のつながりや細部の表現に精巧なテクニックを感じた」との評であった。人体をよく観察して上手に表現している作品だ。その他入選作品の中では、森拓巳さんの木彫“声にならない声”が注目された。「表現意欲は伝わってくるのだが、球体の外に向かって広がろうとする要素が加わればもっと良くなる」と言われた。総評として「胸像、頭像の作品の場合、細部にこだわった作品が多く見られたが、全体を1つの塊としてとらえ内部からわき出すエネルギーを感じられるような表現がほしかった」との意見であった。このことは彫刻の初心者によく見られる傾向であって常に形の全体を考えることが大事である。また「チタンを使った作品など新しい傾向の実験的作品も見られたが素材感を生かすには、もう少し大きさが必要であろう」との感想もあった。

（今回の審査は、大津文昭、井下俊作、松永勉が務めた）

## 会員消息

(県展・放美展関係は除く。順不同)

居上 真人	6月	桜の森彫刻コンクール準賞	秋田県井川町	
	8月	石彫シンポジウム参加	新潟県十日町	
	9月	第83回二科展出品：会友出品	東京・国立新美術館	
	10月	日独友好モニュメント設置	鳴門市文化会館	
	10月～11月	徳島彫刻集団第46回野外彫刻展出品	徳島中央公園	
井下 俊作	11月	小鳴門荘に「なかよし」「空の水族館」設置	鳴門市明神	
	9月	第63回行動美術展：会員出品	東京・国立新美術館	
	10月	第63回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館	
河崎 良行	10月～11月	徳島彫刻集団第46回野外彫刻展出品	徳島中央公園	
	3月	第9回春季二紀展出品	東京都美術館	
	4月	春季徳島二紀展出品	阿波銀プラザ	
	7月	彫刻個展開催	大鳴門橋架橋記念館(エディ)	
	7月	彫刻パネル展開催	鳴門市渦の道ギャラリー	
鎌田 邦宏	8月	第23回徳島二紀展出品	徳島県立近代美術館ギャラリー	
	10月	第62回二紀展出品	東京・国立新美術館	
	3月	第9回春季二紀展出品	東京都美術館	
	4月	春季徳島二紀展出品	阿波銀プラザ	
	8月	第23回徳島二紀展出品	徳島県立近代美術館ギャラリー	
上月 佳代	10月	第62回二紀展出品	東京・国立新美術館	
	1月	二紀展受賞作家新作展出品	銀座松坂屋別館	
	2月	女子美術大学同窓会展出品	阿波銀プラザ	
	3月	第9回春季二紀展出品	東京都美術館	
	4月	春季徳島二紀展出品	阿波銀プラザ	
佐藤 隆	8月	第23回徳島二紀展出品	徳島県立近代美術館ギャラリー	
	10月	第62回二紀展出品	東京・国立新美術館	
	10月～11月	徳島彫刻集団第46回野外彫刻展出品	徳島中央公園	
	武田亜希子	4月	春季徳島二紀展出品	阿波銀プラザ
		8月	第23回徳島二紀展出品	徳島県立近代美術館ギャラリー
10月		第62回二紀展：同人推挙	東京・国立新美術館	
長田 強	3月	第84回白日展：会員出品	東京・国立新美術館	
	6月	第38回日彫展：会員出品	東京・国立新美術館	

		10月	第40回日展：委嘱出品	東京・国立新美術館
濱口 恵		2月～3月	第41回モダンアート徳島支部展出品	阿波銀プラザ
		4月～5月	第58回モダンアート展（版画出品）	東京都美術館
		7月	第58回モダンアート京都展出品	京都市美術館
		10月～11月	徳島彫刻集団第46回野外彫刻展出品	徳島中央公園
林 一美		2月	作品展	ホテルサンシャイン徳島アネックス
		4月	仏像彫刻展	ヨンデンプラザ徳島
東 光司		4月	第58回モダンアート展出品	東京都美術館
		4月	ストーンミュージアム石の彫刻展2008	高松市
		10月	第27回関西モダンアート展	大阪府立現代美術センター
松永 勉		1月	第36回徳島市芸術祭美術展：特別出品	県郷土文化会館
		9月	第63回行動美術展：会員出品	東京・国立新美術館
		10月	全国現代クラフト展：審査員賛助出品	県郷土文化会館
		10月	第63回行動美術展大阪巡回展：会員出品	大阪市立美術館
		10月～11月	徳島彫刻集団第46回野外彫刻展出品	徳島中央公園
		11月	四宮生重郎氏阿波踊り像の制作	徳島市

# 美術工芸部

部会長 山上 馨

## 年間展望

### ◎第63回県美術展（平成20年10月4日～12日 徳島県郷土文化会館）

平成20年（2008年）第63回県美術展・美術工芸部門の応募点数は234点、出品者は179人であった。出品点数は過去最高であった61回展（246点）には少し及ばないが、出品者は7名上回った。年齢はどうあれ、斯道を志す人が増えることは発展の兆しが伺え、誠に心強いものである。

審査は厳正を極め、入選131点を選び、その中から各ジャンルの賞候補を集め、最終的に特選（2）、準特選（4）、奨励賞（3）を決定した。選抜された公募作品131点（入選率56%）に無審査出品12点を加えて、総展示数は143点の盛況となった。

今回の審査員は高知大学名誉教授・現代工芸美術家協会理事の石川充宏先生にお願いした。審査の総評としては「作品数が多い上、さまざまな分野の作品があり、美術工芸のすそ野の広がりを感じた。審査では、作り手が伝えたいことがしっかり表現され、第三者に伝わるかどうかを第一に考えた。そのために、表題を見せてもらった。作品から推測されるテーマと、表題が合っているかを確認するためだ。

徳島市長賞の石田節子「カラーのかたらい」（染織）は、会場に入ったときから気になっていた。多くの審査を行ったが染織でこのような表現は初めてだった。絵画的な雰囲気と趣のある色使い。平面でありながら奥行や空間の広がりを感じさせるのも魅力。葉っぱにしても具体的に見せようとせずぎていないところも面白い。

特選の妹尾文子「鉄釉線文花器」は縦しま模様、鉄釉の色の取り合わせが美しい。紫色に見えたり、銀色がかって見えたり、色味も深い。仕事もきっちりしていて密度が濃い印象。確かな技術が感じられ、見ていて安心できる作品といったところだ。

創作は人に頼まれて行うわけではない。わき起こった欲求のまま、自由に表現するから面白い。ただ、見る人につたわらないのでは何にもならない、たとえ技術は未熟でも、人に伝えたいというハートが大切。そのためにも創作前にテーマをしっかりと持つこと。人に伝わるかを見るには、作品の世界にどっぷり漬かった目では難しいので、散歩してから見たり、逆さにして見たり、工夫が必要だ。

今後も創作し続けてほしい。作る過程で、造形や技術面で挑戦したいと思ったことは、制作中の作品にではなく、次の作品に反映させていく。その繰り返して課題を克服し成

長できると。と貴重なご指導をいただいた。

総評は徳島新聞の県展審査評から引用させていただいた。文章は平易だが、その含むところが深く、短いことばの中に私達製作者の心得が、表現の過程に従って、細緻に説かれている。敢えて本誌に再掲させていただいたのは、会員が座右の銘として表現活動を展開させていけたらと願うからである。

石川先生には、今回はじめてご来駕いただいたが、厳しい審査の裏に、先生のお人柄・隣県の誼で、心暖まるご激励・貴重なご指導をいただいた。改めて深甚の謝意を表し、次回展の発展に繋ぎたいものである。

特選・徳島市長賞	石川 節子「カラーのかたらい」(染織)
特選	妹尾 文子「鉄釉線文花器」(陶芸)
準特選	越 由子「響宴」(パッチワーク)
〃	平尾 静子「秋雲」(陶芸)
〃	田村栄一郎「想」(陶芸)
〃	吉田 祐子「宙」(陶芸)
奨励賞	吉田 陽子「一夜華」(陶芸)
〃	武田 美子「ひねり・U」(陶芸)
〃	近藤佐起江「想花」(押し花)

#### ◎第16回放美展 (平成20年5月2日～6日 徳島県郷土文化会館)

平成20年(2008年)第16回放美展・美術工芸部門は、出品人数153名、出品点数214点の応募があった。これは過去最多の応募があった第14回展(平成17年、139名・205点)をはるかに凌ぐもので、搬入・受付・公開審査の会場は活況を呈した。

審査は一次審査で入選146点(入選率68.2%)を決め、その中から20点の賞候補作品を選抜、二次審査で入賞作品10点(放美賞1点・優秀賞9点)を選んだ。

展示は、放美賞1点・優秀賞9点・入選136点・無審査出品6点となり、総展示数は152点であった。

一般的な傾向としては、陶器が過半数を占め、他のジャンルを牽引している感じである。それだけに陶芸には力作が多く、重量感あふれる大作、作者の個性的な形体の追求が目立ってきたようである。出品数が増加している押し花は数年前のパッチワークがそうであったように手芸的な扱いから、主題性・造形成を重視する工芸的な扱いに変化している様子が伺える。その他のジャンルでは、素材の追求・表現の可能性を引き出そうとする動きが見え、従来の枠にとらわれない新しい表現、アイディアに富んだ作品が目をはひくようになって、今後の展開が期待できそうである。

放美賞・大貝寿子の「トルソー『瞬間』」(陶)は、陶芸だけでなく、ジャンルを越え



た出品作品の中でも圧倒的な存在感のある作品である。従来の形の枠を越えた形体、重量感のあるフォルムと黒釉の力強い調和が作者の意図を端的に表している力作である。活力が作品に漲っている感じがする。

優秀賞・陶芸3点、パッチワーク3点、ガラス1点、染1点、かずら1点はいずれも主題性・造形性・作者の意図が、作者のすぐれた感性や技を通してよく伝わってくる力作であった。それぞれのジャンルで、今後の一つの表現の方向を示唆しているようなインパクトを感じた。

(審査員：多智花佐代子・松下慶一・森 賢一)

放美賞	大貝 寿子「トルソー『瞬間』」(陶芸)
優秀賞	里見 正威「双曲」(陶芸)
〃	加藤 伴江「希望」(ガラス)
〃	木田サチコ「あやとり」(かずら編み)
〃	新見 道代「薫る風」(パッチワーク)
〃	田村 純子「流れ星」(陶芸)
〃	前野 亮治「舞」(染)
〃	鳥井 明子「風にふかれて」(パッチワーク)
〃	吉田 陽子「象嵌焼締線文壺」(陶芸)
〃	宮本 真弓「アスヘノトビラ」(パッチワーク)

## 会員消息

(県展・放美展は除く)

阿部 徳子	・阿部徳子西洋陶芸展	4月	徳島そごう美術画廊
天野 和子	・第47回日本現代工芸美術展(現代工芸賞)	3月	東京都立美術館
	・ゆるい展	4月	文化の森県立近代美術館
	・インターナショナルキルトフェスティバル	4月	アメリカ・パデュエカ
	・「熱い時」天野和子個展	8月	喫茶ギャラリー“ <sup>てん</sup> 田”
大貝 貞雄	・第36回徳島市美術展(徳島文化協会会長賞)	1月	徳島県郷土文化会館
	・第36回県手工芸展(徳島県議会議長賞)	11月	徳島県郷土文化会館
大貝 寿子	・第36回徳島市美術展(徳島市教育委員会教育長賞)	1月	徳島県郷土文化会館
	・第36回県手工芸展(賛助出品)	11月	徳島県郷土文化会館
太田 裕子	・日仏友好150周年記念仏日トリコロールコレクション祭		
	“風雅なる日本芸術の香”(仏日トリコロールコレクション大賞)	9月	ベルシー美術館

越 由子	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第8回東吉野パッチワークキルト展	10月	阿波銀プラザ
	・第27回ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
	・第46回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
多智花佐代子	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第40回日展	10月	国立新美術館
	・第46回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
九十九健二	・第78回第一美術展	5月	東京都立美術館
永山昭一郎	・第32回創作陶芸展	8月	徳島市シビックセンター
西 浩子	・女子美術大学同窓会展	2月	阿波銀プラザ
	・第100回記念徳島県女流美術家協会展	9月	徳島県郷土文化会館
野村 裕子	・第6回法華教室パッチワークキルト展	5月	文化の森国立近代美術館
	・第27回ふう布パッチワークキルト展	11月	徳島市シビックセンター
日浦 久代	・第100回記念徳島県女流美術家協会展	9月	徳島県郷土文化会館
森 賢一	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第40回日展	10月	国立新美術館
	・第46回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
山田 和子	・第18回工芸美術日工会展	4月	東京都立美術館
	・第21回日工会工芸美術四国会展(高松三越賞)	5月	高松・三越
	・第40回日展	10月	国立新美術館
山本 和子	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・創立20周年全国現代クラフト展	9月	徳島県郷土文化会館
	・第20回全国手工芸コンクール in ひょうご (兵庫県芸術文化協会賞)	10月	兵庫県民会館
	・第46回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
吉田 陽子	・陶芸文化振興財団展(審査委員長賞)	6月	国立新美術館
	・第37回徳島・仙台文化交流美術展	6月	せんだいメディアテーク
	・第99回徳島県女流美術家協会展	3月	阿波銀プラザ
	・第100回記念徳島県女流美術家協会展	9月	徳島県郷土文化会館
	・第23回国民文化祭いばらぎ2008	11月	茨城県陶芸美術館
四十宮年代	・第36回徳島市美術展(特別出品)	1月	徳島県郷土文化会館
	・第42回中部染色展(無鑑査出品)	6月	愛知県美術館
	・第23回国民文化祭いばらぎ2008	11月	茨城県陶芸美術館

	・第14回徳島県健康福祉祭美術展	11月	文化の森県立21世紀館
龍木 秀子	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・AQSインターナショナルキルト展	4月	アメリカ・ケンタッキー州 パディカ
	・第46回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松・三越
綾野 昌子	・第18回工芸美術日工会展	4月	東京都立美術館
	・第21回日工会工芸美術四国会展	5月	高松・三越
	・第40回日展	10月	国立新美術館
四宮 千代	・鳴門市シルバー教室・つくし陶遊クラブを開講 作品発表会に出品	7月	鳴門市民ギャラリー
田村栄一郎	・金沢わん・ONE大賞	11月	石川県・香林坊大和
	・第40回日展	10月	国立新美術館
田村 純子	・第30回日本新工芸展（読売テレビ放送賞）	5月	国立新美術館
	・第40回日展	10月	国立新美術館
矢野 款一	・日本工芸会正会員展	5月	東京三越本店
	・日本工芸会四国支部展	10月	高松
	・大谷焼親子三人展	11月	神戸ポートピア ホテルギャラリー
斎藤 和彦	・日本七宝作家協会展	1月	東京都立美術館
	・桜香芸術祭 INサンパウロ	9月	ブラジル・サンパウロ 現代彫刻美術館
小栗加代子	・第47回日本現代工芸美術展	3月	東京都立美術館
	・第25回もめんの詩パッチワークキルト展 inアメリカ	4月	アメリカ・パデューカ エキスポセンター
	・AQSキルトコンテスト	4月	〃
	・history 古民家 de キルト展（個展）	5月	木岐・夢ギャラリー
	・第23回国民文化祭いばらぎ2008	11月	茨城県陶芸美術館
橘 恵	・藍染新作展	6月	徳島市立木工会館
丸居 哲雄	・ゆるい展	4月	文化の森県立近代美術館
	・ごっついん展	9月	文化の森県立21世紀館
	・エナジー2008	10月	文化の森県立近代美術館
	・上板町美術愛好会作品展	11月	上板町・技の館
	・上板町文化祭	11月	上板町・技の館

川真田 弘	・川真田弘藍型染展	5月	札幌・東急百貨店画廊
	・川真田弘藍型絵染展	9月	函館元町・ギャラリー村岡
	・藍建て藍染講習会	9月	北海道北広島市・ 長屋山荘
藤井 哲信	・藤井哲信ガラス展	7月	大丸京都店
	・第55回日本伝統工芸展	9月	東京・三越本店
南 泰樹	・吉野川市美術展	7月	吉野川市文化研修センター
	・吉野川市文化祭	11月	吉野川市体育館
	・高越陶芸クラブ展	11月	貞光ゆうゆう館
南 郁代	・吉野川市美術展	7月	吉野川市文化研修センター
	・吉野川市文化祭	11月	吉野川市体育館
	・高越陶芸クラブ展	11月	貞光ゆうゆう館

# 書道部

副会長 新居 藍州

## 年間展望

### ◎第63回県美術展（第2期10月14日～22日 県郷土文化会館）

今回の応募数は844点で、出品者数は547名で2点出品者が40名増、出品者は26名増であった。篆刻は漢字に含まれたが出品者も増加し秀作がふえたようである。

審査員は漢字・篆刻を真神巍堂氏、仮名は前島泉洲氏、近代詩文・前衛を長谷川牧風氏が担当されたが、いずれも本県書壇のレベルの高さを評価されるとともに古典を学ぶことの大切さを言われた。また「指導者の解釈や個性が表れたものが多かったのは残念だ」「徳島には貫名菘翁や中林梧竹、小坂奇石ら非常に優秀な先人がある。そうした人たちの影響をもっと受けた、徳島県人らしい作品が出てきてもいいと思う」という評には頭の下がる思いがする。

### ◎第16回放美展（5月2日～6日 県郷土文化会館）

書道関係としては、出品点数173点、出品者数143名で前回比7～8%の減となった。入賞数は放美賞1点、優秀賞7点、入選111点、役員を含めた展示総数は128点であった。出品点数の増加を願いながら、会場の関係で逆に入選率の低下という矛盾が克服されない恨みがある。

## 会員の訃報

#### ○横田素林氏

6月19日、83才。早くから梅舒適門下として日展に入選し、砂光篆会を主宰して県下唯一の篆刻家集団を指導された。ことに県展に篆刻を参加させることに力を尽くされた功績は大きいものがある。ご冥福をお祈り申しあげる。

#### ○上田溪水氏

9月2日、84才。1966年小坂奇石に師事、璞社の相談役として重きをなしていた。昭和44年県下の奇石門下による直心会を結成して会長となり、昭和59年正鋒会を結成して自己の後進の指導にあたった。一方、平成11年から13年まで県書展運営委員長、引きつづき県美術家協会書道部会長を勤めてこられた。

昨秋の国民文化祭では審査員など中心的役割りを引きうけられた。

書家としては数少ない漢詩作家であり、自作詩を題材に書作することも多く、門下生も同氏の詩を書くことが多い。心からご冥福をお祈り申しあげる。

### ◎社中展・個展等

○ 第32回東玄書道会展	阿波銀プラザ	1月5日～	7日
○ 第28回書研社展	徳島市シビックセンター	2月22日～	24日
○ 第37回光輪社書作展	県立文学書道館	4月18日～	20日
○ 第15回大叢会書作展	県郷土文化会館	5月9日～	11日
○ 第2回幽の会書展	徳島市シビックセンター	7月17日～	21日
○ 三塊書展	徳島市シビックセンター	7月25日～	28日
○ 岩本志豪書展	阿波銀プラザ	9月5日～	7日
○ 第71回書芸院展	県郷土文化会館	9月12日～	15日
○ 第37回徳島雪心会書作展	県郷土文化会館	9月13日～	15日
○ 第20回陸月会書展	徳島市シビックセンター	10月1日～	3日
○ 六書会書展	ヨンデンプラザ徳島	10月3日～	5日
○ 紫苑会書展（東弥生外14名）	京都ふじたアート	10月18日～	19日
○ 第38回直心会書展	県郷土文化会館	11月1日～	3日
○ 第35回双暢会書展	県郷土文化会館	11月1日～	4日
王定成・東南光書展			
国際書画展			
○ 向井京子三世代書展	脇町うだつの町時代屋ギャラリー	11月1日～	30日
○ 第31回泉心会書作展	徳島市シビックセンター	11月29日～12月1日	
○ 第2回春琴とその仲間たち展	阿波銀プラザ	11月29日～12月1日	
○ 第13回尚真書展	阿波銀プラザ	12月5日～	7日
○ 第23回正鋒会書展	県郷土文化会館	12月19日～	21日
○ 第12回せせらぎ書展	徳島市シビックセンター	12月20日～	22日

### 個人消息

（県展・放美展・社中展は除く）

役員で出品した人・入賞者（平成20年1月～12月）順不同

○ 第49回太玄会書展（東京都美術館 1 / 11～18）

第44回太玄会役員書展（東京セントラル美術館 5 / 13～18）

理事運営委員 春藤大耿

理事実行委員 近藤静苑・田村昇鶴・富久鳴泉・中尾勝子

理事 大櫛一峰・岡島順子・下村清子・中西甫子・西谷香峰・真子佳石  
 審査会員 足達玉美・大塚秀峰・木村弘子・小出圭子・古郷弘江・鈴木惠理  
 瀬藤豊子・西宇明美・西谷香峰・廣島白鷺・吉田美重子・弘田長風  
 南 溪石  
 太 玄 賞 西谷香峰  
 特 別 賞 馬居汀香  
 準 推 選 阿部敬子  
 準 特 選 高見典子  
 獎 励 賞 春藤玉秀  
 会員新人賞 三崎久子

○第62回日本書芸院展（大阪市立美術館 2 / 19～24、4 / 15～20）

一科審査会員 能仁華瑤・山口華城・隅田英二・高田青蓮・矢部知子・清水桂月  
 長江頌石・薄田玲泉・河野真流・森 光翔・宇山泰鳳・向井京子  
 龜石文苑・東 弥生

二科審査会員 福永美泉・安原照代・辻 紅雲・長谷美峰・川村春琴・谷口清水  
 小西玉翠・松永翠月・横田典子・鳩成青嶂・藤村柳葉・阿部珠雪  
 藤山真由里・沖田唐谷・谷 弘美・宮守崇流・上田輝芳・井上虹雨  
 倉本景雨・赤川景舟・山本景琴

史 邑 賞 能仁華瑤

大 賞 青木東原・沖田唐谷・宮守崇流・福家美鵬・福永美泉

特 別 賞 藤岡千江子・野口有香・遠藤玉流・後藤佳美・中尾勝子・西谷香峰  
 伊月紫瑤・吉田翠彩・若木聖章

特 選 谷 玲琴・前川林谷・阿部博子・井上小百合・古谷和代・寺尾俊通  
 一科推薦賞 日下真宏・惠美春陽・富山康江・中西瑤汀・北村浩子・向井境子  
 丸岡春暁

二科推薦賞 河見踏春・佐野陽子・中上智世・河野多美・福島舞子・桑原亮介  
 渡辺理恵・後藤紀代・佐々京子・仁木輝実・西岡田皐月・堀江朝石  
 安友彰子・吉村敬子・米倉由加里

○第57回奎星展（東京都美術館 3 / 7～12）

同 人 中川観山

無 鑑 査 中川一鳳

準 特 選 義富博正

褒 賞 島尾明良

- 第44回創玄展（国立新美術館 3 / 6～16）
  - 一科審査員 荒井彭仙・浜 佳香・玉城乾香・長原皐聖
  - 二科審査員 永松春苑・多田清芳・芝原醒鶴
  - 審査会員 岩本志豪・大島溪石・吉田和婉
  - 学生部審査員 丸岡香貞・大西清葩・朝三皐如
  - 一科特選 岸 緑香
  - 一科秀逸 佐藤恵和・平岡幽琴・野田満代・若林雅節・長原皐月・岩崎麻美  
児玉幸子・野口皐玖・吉田和婉・玉城乾舞・富永美祥・山口幽径
  - 二科賞 和田祥功・栗林和江
- 毎日展新会員作家展（アートサロン毎日 3 / 10～15）
  - 岩本志豪
- 毎日展巡回高知展（高知かるぽーと 4 / 22～27）
  - 荒井彭仙・永松春苑・岩本志豪・吉田和婉・川端康清・幸田清尚  
浜 佳香・多田清芳・丸岡香貞・岸 緑香・仁木志香・栗山弘子  
芝原醒鶴
- 日本書芸院役員展（大阪国際会議場 4 / 22～27）
  - 常務理事 勝瀬景流
  - 参 与 東 南光・上田溪水
- 第44回太玄会役員書展（東京セントラル美術館 5 / 13～18）
  - 理事・運営委員 春藤大耿
  - 理事・実行委員 近藤静苑・田村昇鶴・富久鳴泉・中尾勝子
  - 理 事 大櫛一峰・岡島順子・下村清子・中西甫子・西谷香峰・真子佳石
  - 審査会員 足立玉美・大塚秀峰・木村弘子・小出圭子・古郷弘江・鈴木恵理  
瀬藤豊子・西宇明美・廣島白鷺・弘田長風・南 溪石・吉田美重子
- 第32回由源会全国書展（マイドーム大阪 5 / 24～26）
  - 常任無鑑査 川村春琴
  - 幹 事 丸岡春暁・中村春岳・谷 玲琴・土井和翔
- 第36回日本の書展・関西展（大阪国際会議場 5 / 29～6 / 1）
  - 現代書壇代表 勝瀬景流
  - 招 待 東 南光・春藤大耿・荒井彭仙・玉城乾香
  - 秀 抜 選 東 弥生・能仁華瑤・浜 佳香・多田清芳・川村春琴・武市鳴雲  
長江頌石・清水桂月・竹田和代



○第31回日本かな書展（東京高島屋 5 / 8～12）

副 理 事 長 藤若美風

審 査 会 員 松本清香・長谷美峰

○日本の詩歌と書の世界展（東京セントラル美術館 6 / 10～15）

荒井彭仙・永松春苑・浜 佳香・玉城乾香・芝原醒鶴

○第60回朝陽書道会展（岡山県天神山文化プラザ 6 / 17～22）

理 事 長 勝瀬景流

常 任 総 務 薄田玲泉

常 任 理 事 赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・河野真流・倉本景雨・佐川菁流  
竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔

○水穂会書展（東京都美術館 6 / 25～28）

総 務 東 弥生

常 任 理 事 宇山泰鳳・向井京子

○第60回毎日書道展（国立新美術館 7 / 9～8 / 3）

（愛媛県立美術館 8 / 12～17）

審 査 会 員 荒井彭仙・玉城乾香

会 員 長原皐聖・永松春苑・岩本志豪・芝原醒鶴・浜 佳香・多田清芳

秀 作 賞 平岡幽琴・吉田和婉・木田史香

佳 作 賞 岸 緑香・岡崎啓香

会 友 朝三皐如・長原皐月

○第25回読売書法展（国立新美術館 8 / 22～31）

（サンメッセ香川 11 / 7～9）

常 任 理 事 勝瀬景流

理 事 東 南光・東 弥生・薄田玲泉

幹 事 隅田英二・山口華城・高田青蓮・福永美泉・上田溪水・春藤大耿  
清水桂月・長江頌石・宇山泰鳳・向井京子・能仁華瑤・長谷美峰  
竹田和代・河野真流・上田輝芳・倉本景雨・竹内虹舟・宮守崇流  
佐川菁流・井上虹雨

評 議 員 駒田水洸・松永翠月・辻 紅雲・加村貴美子・森 光翔・遠藤玉流  
背川景玲・皆谷芳穂・近藤俊流・川村春琴・林 美雪・阿部博子

会 友 青木東原・八木藍玉・浅川蘭舟・西岡花春・丸岡智子・小林青藤  
酒井橋華・岡島紫翠・川口芳玉・宮崎聖鳳・井内晃流・田村富士子  
読売新聞社賞 上田輝芳・清水桂月

読売俊英賞 能仁華瑤・亀石文苑・宮守崇流・隅田英二

奨励賞 森 光翔・馬居汀香・米澤東籬

特選 河野多美・井上景玄

秀逸 井上小百合・恵美春陽・小西玉翠・内田麻紀・崎野亜希子・後藤佳美  
河野美鶴・鈴木恵理・射場少藍

○第25回産経国際書展（東京都美術館 9 / 1～16）

専管理事 藤若美風

評議員 松本清香・三浦富美代

○第40回日展（国立新美術館 10 / 31～12 / 7）

入選 伊丹東龍・上田輝芳・辻 紅雲・森 光翔・米澤東籬・薄田玲泉  
福永美泉・竹田和代・東 南光・亀石文苑・能仁華瑤

新入選 射場少藍・山本景琴

○第34回創玄現代書展（東京セントラル美術館 11 / 4～9）

選抜入選 平岡幽琴・大西英仙

○第22回寒玉会展（大阪ラマダホール 11 / 5～7）

常任総務 長谷美峰

○ヨーロッパ巡回 日本現代書展（ブルガリア国立美術館 11 / 6～30）

勝瀬景流

○第24回国際蘭亭筆会書法展（台湾国立中正紀念堂 第一展室 11 / 21～30）

国際蘭亭筆会日本部

理事長 東 南光

評議員 高松慎光

○第48回環社展（大阪市立美術館 12 / 2～7）

相談役総務 東 南光

相談役 上田溪水

参事 春藤大耿

参与 長江頌石・豊浦春光・清水桂月・松本深翠

常任理事 小西玉翠・駒田水洸・武市鳴雲・能仁華瑤・馬居汀香

理事 岡島朱伯・河野多美・高井春華・谷口清水・鈴木恵理・田上洋香  
花本清香・春藤玉秀・野口有香・松永翠月・弘田長風・松浦翠篁  
藤田喜美・横田典子・八木藍玉・馬淵直枝・南 溪石・石井祥洗  
須見智香・永岡光翠・吉平伶香・伊藤景風・林 美雪

評議員 上田美智・大本華越・片山芳明・園尾恵風・谷本真由美・長尾愛香

前川林谷・森本真由美・梯 高嶋・河野美鶴・椎野藍園・平野東郷  
山内弘翔

璞社会長賞 中西瑤汀

特別賞 恵美春陽・佐野陽子・岡部比登美・北村浩子・西村美保・丸岡泉石

優秀賞 久保光瑤・稲井華風・福井珠光

特選 井上加芳・遠藤清子・多賀晴光

佳作 笠井仁美・高柳早秀・服部紫光・瀬川耿韻・山崎真美

奨励賞 大塚秀峰・杉本フバルタ・三木悠洗

○第60回正筆会役員展（兵庫県立美術館 12／10～14）

総務理事 竹田和代

常任理事 阿部博子

理事 古谷和代

○第30回日本書道学院展（東京都美術館 12／17～22）

客員 勝瀬景流

審査員 薄田玲泉・河野真流・赤川景舟・井上虹雨・上田輝芳・倉本景雨

近藤俊流・佐川菁流・竹内虹舟・宮守崇流・森 光翔・山本景琴

大賞 背川景玲

準大賞（読売新聞社賞） 井上景玄

# デザイン部

部会長 福井 章

## 年間展望

### ◎第16回放美展（5月2日(金)～5月6日(火) 県郷土文化会館）

応募点数80（出品人数71）から45点が入選した。審査は美協、坂本三千一、敷島のり子、四十宮隆志が担当した。放美賞は「I'm here …」の福島拓馬。優秀賞は吉村敏嗣、佐伯奏美、森本葉暁が受賞した。その他審査員出品として坂本、敷島、四十宮が、運営委員の福井章、北島豊嗣、田中一郎、美協理事の沢口功が出品し、入選作と併せて計52点が展示された。

### ◎第63回徳島県美術展（第1期10月4日(土)～10月12日(日) 県郷土文化会館）

審査員に大阪芸術大学大学院教授、松井桂三氏を招いた。前回の三木健氏に次いで大阪からの審査員になった。

応募点数85（出品人数68）、入選40点（入選率47%）。賞は特選2、準特選3、奨励賞3点。特選・四国放送社長賞に「レトロShop」の武田真依、特選に「Peace Maker」の明樂晴子が選ばれた。準特選は須藤政代、四十宮隆志（部会員）、佐伯奏美、奨励賞に吉村敏嗣、河村瑠衣、大和美智子が受賞した。その他入選には部会員の沢口功、西林良枝、四十宮隆志（3点）、斎藤剛が入った。審査員からは「他県でも審査をするが、徳島の県展のレベルは非常に高かった」と評をいただいた。会場には以上に加えて、特別出品として坂本三千一、福井章、招待作家の斎藤繁次、坂野美恵子、敷島のり子、無鑑査出品の斎藤志津子の6点、計46点が展示された。

### ◎デザイン部会展（2月16日(土)～2月20日(水)、10月28日(火)～11月3日(月・祝)）

国民文化祭美術展のため先延ばししていた部会展を2月に行ったので、年2回の部会展となった。「地球環境」をテーマに2月16日(土)～2月20日(水)。「ウソ (USO)」をテーマに10月28日(火)～11月3日(月・祝)。ともに会場は徳島駅ターミナルビル、クレメントプラザ4Fクレメント広場。

## 計 報

2009年1月11日、日本グラフィックデザイナー協会会長福田繁雄氏が逝去されました。県美術展審査、国民文化祭美術展審査委員長としてもお世話になりました。ご冥福をお祈りします。

## 会員消息

(県展・放美展関係は除く)

### ■生田 典子

- 2月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)
- 10月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)

### ■坂野美恵子

- 2月 日本現代ポスター展出品 (韓国：釜山)  
美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)
- 3月 二科春季展：会員出品 (東京都美術館)
- 8月 第93回二科展デザイン部門：会員出品 (国立新美術館)
- 10月 徳島Web大賞2008審査員

### ■斎藤 繁次

- 2月 サイトウシゲジイラスト展 (ドクターエンドー徳島展)  
美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)
- 9月 ごっついん阿波展 (県立近代美術館)
- 10月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)

### ■斎藤志津子

- 2月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)
- 10月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)

### ■坂本三千一

- 4月 第63回県美術展ポスター作成
- 6月 平成20年度平和啓発ポスターデザイン選考会委員 (徳島県)  
東京グラフィックデザイナークラブ韓国展出品  
(モデランデザインミュージアムギャラリー)
- 9月 日韓311個の地球展出品 (東京サッポロ銀座ビル)
- 10月 美術家協会デザイン部会展出品 (クレメントプラザ)
- 12月 経済5団体・年賀祝賀会平成21年表紙デザイン (県商工会連合会)
- 12月 第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品  
(徳島新聞社会文化事業団・徳島そごう)

■沢口 功

- 1月 第36回徳島市芸術祭美術展：審査員出品（県郷土文化会館）  
2月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）  
12月 第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品  
（徳島新聞社会文化事業団・徳島そごう）

■敷島のり子

- 4月 第10回「国際ポスター展 in はなはるフェスタ」を企画開催  
8月 世代美術展出品（徳島市シビックセンター）  
10月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）  
12月 第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品  
（徳島新聞社会文化事業団・徳島そごう）

■西林 良枝

- 7月 世紀のダ・ヴィンチを探せ！国際アート展出品  
（大阪なんばパークスパークスホール）  
8月 富山プロダクトデザインコンペティション2008 1次審査通過  
10月 デザインウェブ2008イントヤマ出品  
12月 デザインを手掛けた「柚子っ子」国産100%が「特撰阿波の逸品」に選ばれる

■福井 章

- ・徳島新聞朝刊「阿波路イラストぶらり旅」絵と小文（毎月1回連載）
  - ・とくしま“あい”ランド推進協議会情報誌「いのち輝く」（年3回連載終了）
  - ・徳島調停協会連合会会報「和と情理」イラストシリーズ（年2回連載）
  - ・'09徳島新聞新年号イラストシリーズ37点制作
- 2月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）  
徳島県出版文化賞特別賞受賞  
9月 こども県展作品審査（徳島新聞社）  
10月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）  
12月 第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品  
（徳島新聞社会文化事業団・徳島そごう）

■吉本 實

- 9月 文化庁：平成20年度「舞台芸術の魅力発見事業」日唱コンサート（ポスター、パンフレット、チケット等制作）

経済産業省補助事業：美郷マクロビオティック・ツアー（ポスター、パンフレット、アートディレクション・デザイン制作）

10月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）

徳島県花基金事業（徳島県観光協会）

・「キャラクター」アートディレクション・デザイン制作

・「徳島花へんろMan」アートディレクション・イラスト・デザイン制作

・'09版「徳島花へんろポスターカレンダー」アートディレクション・デザイン制作

## ■四十宮隆志

1月 「±40 四十宮隆志展」過去15年のグラフィックデザイン（ポスター）から40点展示（県立近代美術館）

2月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）

6月 「JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会第25回通常総会&講演会」参加  
（大阪サントリーミュージアム天保山 IMAXシアター）

7月 「日仏交流150周年／プロワ日仏芸術祭2008」グラフィックデザイン（ポスター）1点出品&レセプション参加（フランス・プロワ／アール・ホグラン）  
「世紀のダ・ヴィンチを探せ！国際アート展」出品  
（大阪なんばパークスパークスホール）

「どきん2／イメージフォトクラブ展」出品（阿波銀プラザ）

10月 美術家協会デザイン部会展出品（クレメントプラザ）

11月 「インドネシア交流50周年／バリ日本芸術祭2008」グラフィックデザイン（ポスター）1点出品&レセプション参加  
（バリ島ウブド・トニーラカギャラリー）

12月 第37回歳末チャリティ作品・色紙即売展出品  
（徳島新聞社会文化事業団・徳島そごう）

# 第63回県展審査評

## [日本画]

審査員 雲丹亀 利彦  
(京都精華大学准教授)

真摯な制作スタイルが感じられる作品が多かった。日本画は感動した題材と向き合うことから始まるが、感動が少ないと作品の充実度も薄い。そして、感受性が強ければ強いほど「鮮度」をもって表現できる。入賞・入選作は作者の狙いや、観点が明確で感動が伝わってくるものが多い。

県美術家協会会長賞の平野真里「翔ける回転木馬」は遊園地を題材にしている。空飛ぶ木馬というのは、非現実的な世界だ。現代社会は住みにくく、気持ちが落ち込むことも多い。逃避ではないが「現実から少し離れて、心のエネルギーを補いたいな」という思いがあったのかもしれない。回転木馬に乗って、作者が感じた心のやすらぎが見る側にも感じ取れる作品だ。

特選の宮越千佳「過ぎゆく夏の日」のヒマワリには人物が投影され、擬人化されているように感じられた。このヒマワリは妖えんだ。神秘性や生命感が、色のコントラストによってうまく引き出されている。季節が変わり、ヒマワリは枯れるが、命や英気、エネルギーといったものを次世代、後世につないでいこうとする姿が見られる。一步踏み込んだ作者の観点到ひかれた。

選外にも「この点だけ手を加えたら、もっと良くなるのに」と思える作品がたくさんあった。仕上げの過程では、冷静に、客観的に自分の絵を見つめる時間をもってほしい。そうすれば独りよがりにならず、違った観点での作品作りが可能になるだろう。

## [洋画]

審査員 桜井 寛  
(独立美術協会会員)

初めは全体的に何となく類型的で元気がないような気がしたが、見ているうちに非常に個性的でこちらの気持ちにぐっと入ってくる作品が多かった。ウシや阿波踊りなど地域性を感じさせる作品も多く、都会では味わえない素朴で感情的な絵もあった。



審査に当たっては、まず個性的であること、そして自分のやりたいことを戸惑うことなくストレートにぶつけていると感じられる作品に注目した。

県知事賞の南城ミツ子「こころ・はずむ」は、手慣れた技術を駆使した作品。色の配合や構図、組み立てがしっかりできていて、人物の体の動きが総合的に画面を流動的に見せ、踊りのにぎやかさや雑踏の雰囲気を見事に描き出している。

特選の野口暁子「蓮根畑の冬」は、夏が去り、ハスの葉が次第に枯れていく時間的な感じをうまくとらえた。少し寂しげな雰囲気に心が打たれる。色のコントラストがもう少し見えると、なお良かっただろう。

特選の玉田秀子「悲しみは癒えることなく」は、コンクリートの建物がそびえる都会、また群集の中にある人間の孤独をうかがわせる。色の数も抑えられ、モノクロとわずかな黄色に絞ってしっかりと表現している。

似た傾向の絵が少なからずあったことは、県展として今後考えてみなければならない問題だろう。もっと自分の絵を描いてほしい。絵が自分の後から来るのではなく、自分より先に歩いていくような、しゃべってくれるような、そんな絵を描いてほしい。

## [写 真]

審査員 田 沼 武 能  
(日本写真家協会会長)

上級者から初心者までの幅広い作品が出品された。想像以上に全体のレベルが高く、テーマや作風が偏らないよう、バランスを考慮して賞を決定した。

県議会議長賞の阿部啓三「時空間」は、美術館の風景をとらえた作品。何といても、造形が素晴らしい。空や雲、壁といった象徴的なものが強調され、周囲の余計なものをシルエットとした。構成が洗練されており、作者の主張が明確に現れている。

特選の西野倫子の組写真「夏の記憶」はモノクロでややきつい感じがする。しかし、花火、シャワー、金魚という夏の風物をうまくまとめて写し込んでいるところが良い。他のいくつかの組写真と比べ、内容が深い気もした。

廣野美知子「幸せな時」は見るからに幸せそう。おそらく夫婦だろうが、照れながらも、うれしそうな二人の表情がとても印象的。顔を強調して見せている点がうまい。

大津勝治「親子でゴール」は、マラソンというイベントが作ったチャンスを逃さなかった。父にとって子どもと一緒にゴールは至福の瞬間。「幸せな時」と同様、幸せそうな雰囲気が如実に表れている。これらの作品からは作者の感動が見る側にも伝わってくる。

写真というのはうまく写せないから面白い。「もっとうまく撮れるんじゃないか」と思う気持ちや気力を持つことが大切だ。そこから、好奇心や行動力などが生まれ、結果的にいい作品へとつながる。残念ながら落選した人も来年に向けて努力してほしい。

## [彫 刻]

審査員 林 武 史  
(東京芸術大学准教授)

出品数はそう多くなかったが、創作意欲が感じられる作品が多く、テーマ設定もバラエティーに富んでいた。審査のポイントにしたのは大きく二つ。素材と格闘し、その良さをうまく引き出しているか、作品を通じて自分の世界観をはっきりと表現できているかどうかという点だ。

県教育委員会教育長賞の三原敏文「海風」は、家族愛というオーソドックスなテーマだが、全体から受ける温かみはもちろん、空間の中に新しい空気を作り出す「彫刻力」の素晴らしさを感じた。子どもの肩車をしている父親の足の広げ方など、構成している一つ一つが絶妙なバランスで、伝えたい世界観を表現している。木のよさをうまく生かし、古代彫刻にも通ずるような造形もインパクトがある。

準特選の山橋大二郎「静寂」は女性の立像だが、女性の力強さが強調され、生きていくことの希望を感じる。太い腰、胸の出っ張りなど骨太にデフォルメされていて人体の形としては大げさだが、作り手のメッセージが彫刻というものを借りて、ひしひしと伝わってくる。

準特選の高丸公相「蜃気楼の匣」は、でこぼこした発泡スチロールのようなものにポリエステルでオブラートをかけ、蜃気楼という実体のない不確かなものを、面白さやあやうさなど作品から受ける印象で、うまく表現している。台座を全体に合うよう工夫すれば、さらによかった。

彫刻の審査をしていると、何を作りたいのか伝わってこない作品を見かけることがある。彫刻は、作り手と見る人の間のメッセージが大切。なぜ作るか、どうやって作るか、作ったらどうするかなどを考え、愛情を持って創作に励めば、きっといい作品が生まれると思う。

## [美術工芸]

審査員 石川充宏  
(現代工芸美術家協会理事)

作品数が多い上、さまざまな分野の作品があり、美術工芸のすそ野の広がりを感じた。審査では、作り手が伝えたいことがしっかり表現され、第三者に伝わるかどうかを第一に考えた。そのために、表題を見せてもらった。作品から推測されるテーマと、表題が合っているかを確認するためだ。

徳島市長賞の石田節子「カラーのかたらい」(染織)は、会場に入ったときから気になっていた。多くの審査を行ったが、染織でこのような表現は初めてだった。絵画的な雰囲気と趣のある色使い。平面でありながら奥行きや空間の広がりを感じさせるのも魅力。葉っぱにしても、具体的に見せようとしすぎていないところも面白い。

特選の妹尾文子「鉄釉線文花器」は縦しま模様、鉄釉の色の取り合わせが美しい。紫色に見えたり、銀色がかって見えたり、色味も深い。仕事もきっちりしていて密度が濃い印象。確かな技術が感じられ、見ていて安心できる作品といったところだ。

創作は人に頼まれて行うわけではない。わき起こった欲求のまま、自由に表現するから面白い。ただ、見る人に伝わらないのでは何にもならない。たとえ技術は未熟でも、人に伝えたいというハートが大切。そのためにも創作前にテーマをしっかりと持つこと。人に伝わるかを見るには、作品の世界にどっぷり漬かった目では難しいので、散歩してから見たり、逆さにして見たり、工夫が必要だ。

今後も創作し続けてほしい。作る過程で、造形や技術面で挑戦したいと思ったことは、制作中の作品にではなく、次の作品に反映させていく。その繰り返して課題を克服し成長できる。

## [書道]

### ●漢字・篆刻

審査員 真神巍堂  
(日展会員)

行草書に優れた作品が多く、長い書歴とレベルの高さを感じた。墨の潤濁や文字の大小、一行の流れ、行間の美しさなどの構成力の巧みさだけでなく、線に書き手の個性が表わ

れているものを選んだ。

徳島新聞社長賞の勝浦美和「劉長卿詩」は、運腕が大きく、呼吸の長い文字が特徴。リズムカルで、ふところの大きな書きぶりだ。行をまっすぐに書かず、うねりを持たせてまとめ上げているところに、熟練したテクニックを感じる。

特選の石井瞳「王漁洋詩」は、派手さはないが、深みのある線質が魅力。画数の違う文字を一行や紙全体にちりばめ、線の疎密が変化に富んでいる。

乾温史の「杜甫詩」は、行間を密にする構成。文字の大小、墨の潤濁の巧みさに、達者な書きぶりを見た。柔らかな線で軽快な印象を与える。

米澤司子「杜甫詩」は、力強く鋭い線で表現した文字を、行間のバランスよく配置している。古典の研究の成果が表れ、構成に優れた秀作。

篆刻部門奨励賞の田淵勲「取全真而保素」は、伝統的な中に、余白の生かし方にオリジナリティーがあり、洗練された作品に仕上がっている。

毛筆には、古典の研究から生まれてくる独創性が必要だ。出品作に、指導者の解釈や個性が表れたものが多かったことが残念だ。古典としっかり向き合い、指導者の技法をうまく自分のものにしながら、作風を確立して行ってほしい。

## ● 仮 名

審査員 前 島 泉 洲  
(日展会員)

構成がしっかりとしていて、まとまりのある作品が多かった。全体的にレベルが高いというのが第一印象だ。自分の美意識と合致する書を選んだが、数の都合上、選外の中にも入選に値する作品は数多くある。

芳田知子の古今和歌集「大空の」（詠み人知らず）は、だいたい色に近い画仙紙の染紙に書かれた作品だ。余白が均等で、おおむね字粒もそろっている。一見、平凡に見えるかもしれないが、むしろ作者の狙いどころだろう。運筆が実におおらか。線に強弱があり、躍動感にあふれている。スケールの大きい作品に仕上がっているところに強くひかれた。

宮守とみ「良寛の歌」は、行が変化に富んでいて面白い。つまり、文字が行の中心を通らずに流れている。うねりを出すことによって、うまく余白を作り出した。書き出しは墨が少なく、文字が小ぶりで、途中から動きが大きくなる。そして後半、字を絞り、充実感や締めりのある行を作った。基本的な「散らし」を心得ていることがよく分かる。

奨励賞以上の九点のうち、八点までが横の作品で占められた。簡単ではないにせよ、縦作品に比べて、変化が出せる可能性が高いからかもしれない。これは全国的な傾向でもある。

仮名を志す人は古筆をよく学び、美しさを吸収する努力が最も大切だ。ただ、それにとられるのではなく、古筆を踏まえた上で、それぞれの美を見つけ出してほしい。

## ●近代詩文 前衛

審査員 長谷川 牧 風  
(毎日書道会評議員審査会員)

全体的に非常に完成度が高く、力強い大字をはじめ中字、小字など多様な作品がそろっていた。

特選の岩本雅三「自作詩（花火）」は、潤濁が多用されていることで、非常に遠近感がある。大字と小字のバランスも良く、リズムも流ちょうで、縦長の字形が作品全体を美しく優雅に見せている。落款の位置も絶妙だ。

特選の玉城若菜「加藤登紀子詩」は、線がととても優しく叙情的で、題材として取り上げた詩の意味を上手に表現できている。文字の大小、デフォルメも見事だ。行間に疎密があって構成の妙が感じられ、白い部分が美しい。

前衛は、表現方法が多彩で、技術的に高いレベルの作品が多くあった。

準特選の中川博雅「孫」は、渴筆の美しさが素晴らしい。曲線と直線のコントラスト、開いた線と閉じた線の絶妙さ、静と動、密と疎といった点でも、よく考えられた知的な構成といえる。時間をかけて研究したのだろう。見る人の心線に触れる作品で、作者は抜群のセンスを持っている。

徳島には貫名菘翁や中林梧竹、小坂奇石ら非常に優秀な先人がいる。そうした人たちの影響をもっと受けた、徳島県人らしい作品が出てきてもいいと思う。そのためには、先人たちがしたように中国の古典をしっかりと学習し、自分の表現力を広げてほしい。

## [デザイン]

審査員 松 井 桂 三  
(大阪芸術大学大学院教授)

他県でも審査をする機会があるが、徳島の県展のレベルは非常に高かった。今までになかったビジュアル、新しい表現、またそうした可能性のある作品や個性を期待して審査に当たった。

四国放送社長賞の武田真依「レトロ shop」は、1950年から60年代のアメリカを現代に生かした作品で、個性が見事に表現されている。恐らく作者はファッションなどに関心が

あるのだろう。色も素晴らしく、イラストレーションとしてのストーリー性が感じられるところが面白い。見る人の目を作品のどこに向けさせるかを研究していけば、もっともっと良い作品が描けるだろう。

特選の明樂晴子「Peace Maker」は、イラストというよりも絵画に近い作品、デザインというよりはアートといった方がいいかもしれない。個性あふれる魅力的な作品だ。作者は非常に卓越したテクニックを持っており、プロとしてやっていけるレベルだ。全体的にうまく収まり過ぎている感があるので、少しレイアウトを崩すことなどを研究すれば、面白くなると思う。

今、世界では漫画がアートとして認められるようになった。デザインやアートといった領域もなくなり、特に若者たちは好きなものを好きなように描くようになってきている。領域のないこの時代、自由でいいと思う。領域を超えて挑戦してほしい。そして、自分をさらけ出す気持ちで作品制作に取り組んでほしい。

## 平成20年度 第63回徳島県美術展（県展）公募規定

部門 区分	日本画	洋画	写真	彫刻
搬入日	9月21日	9月20日	9月28日	9月21日
搬入先	徳島県郷土文化会館 3F 展示場			
審査日	9月21日	9月21日	9月28日	9月21日
審査員	雲丹亀利彦	桜井 寛	田沼 武能	林 武史
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未公開作品に限る</li> <li>・点数は制限なし</li> <li>・小・中学校在学者は出品できない</li> <li>・70.0cm×47.0cm(額縁を除いて)以上でタテ、ヨコ190cm(額縁を含む)以内(ガラス・アクリル不可)</li> <li>・吊り紐</li> </ul>	同 左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組・単とも半切及びA3から全倍サイズで画面の長辺が40cm以上80cm</li> <li>・スクエアサイズ(正方形)は一片が30cm以上50cm</li> <li>・パネル張りに限る</li> <li>・無鑑査以上は上記サイズの単写真に限る</li> </ul>	同 左
入賞	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 3点 準特選 6点 奨励賞 5点 入選 規定数	特選 4点 準特選 9点 奨励賞 8点 入選 規定数	特選 1点 準特選 2点 奨励賞 2点 入選 規定数

部門 区分	美術工芸	書道	デザイン
搬入日	9月21日	9月26日	9月28日
搬入先	徳島県郷土文化会館 3F 展示場		
審査日	9月21日	9月27日	9月28日
審査員	石川 充宏	真神 鏡堂、前島 泉洲、長谷川牧風	松井 桂三
出品料	協会員 1点目 3,500円 その他の方 4,500円 2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未公開作品に限る</li> <li>・点数は制限なし</li> <li>・小・中学校在学者は出品できない</li> <li>・大きさ制限なし(ただし、平面作品はタテ1.8×ヨコ1.5m以内)</li> <li>・木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等 展示できる用具をつける</li> </ul>	同 左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B1パネル(横728×縦1,030ミリ)厚さ5～75ミリ程度重さ5kg以内</li> <li>・課題は自由(実在の商品名・会社名等は除く)</li> <li>・法的規制に触れないこと</li> <li>・吊り紐</li> </ul>
入賞	特選 2点 準特選 4点 奨励賞 3点 入選 規定数	特選 8点 準特選 14点 奨励賞 13点 入選 規定数	特選 2点 準特選 3点 奨励賞 3点 入選 規定数

(注)・落選作品は審査終了後、各部門で決められた日時までに搬出すること

- ・展示作品は第一期は10月12日(日)、第二期は10月22日(水)の午後5時から午後6時までに搬出すること
- ・所定の期日までに搬出しない場合は主催者において処分する

第 63 回 県 美 術 展

特別・招待・無鑑査・賛助出品者名

☆ 日 本 画

(特別出品)	西 野 和 男		
(招 待)	橋 本 正 弘	中 川 健	岡 英 彦
	土 方 るみ子	土 井 洋 子	中 西 芳 雄
(無 鑑 査)	日 浦 猛 史		
(賛助出品)	長 谷 壽		

☆ 洋 画

(特別出品)	佐 野 比呂志	梶 田 務	
(招 待)	清 水 巫 悞	桶 瀬 等	露 口 敏 幸
	長 尾 弘 久		
(賛助出品)	岡 多美子	河 田 安 市 寛	黒 崎 志 郎 守
	後藤田 仁 一	松 川 寛	岡 田 守
	中 辻 奈美枝		

☆ 写 真

(特別出品)	西 條 征 二	櫛 淵 魏	
(招 待)	増 田 清 次	井 上 光 雄	木 田 英 之
	勝 西 雅 夫	笹 田 敏 雄	三 好 和 義
	上 野 照 文	森 賢 一	橋 本 圭 祐
	前 浦 芳 久	荒 井 賢 治	林 敏 彦
	古 井 謙 吉	中 野 建 吉	井 藤 光 章
	増 田 寿	柳 本 正 治	大 和 健 司
	船 越 正 文	堀 淵 完 治	
(無 鑑 査)	久 保 英 樹	堀 口 幸 男	岩 崎 英 昭
(遺 作)	安 長 剛		

☆ 彫 刻

(特別出品)	河 崎 良 行		
(招 待)	佐 藤 隆 勉	井 下 俊 作	鎌 田 邦 宏
	松 永 勉	居 上 真 人	
(無 鑑 査)	上 月 佳 代		
(賛助出品)	長 岡 強		



☆ 美術工芸

(招待)	高橋 勇	七條 猪三郎	多智花 佐代子
	松下 雄介	松下 慶一	森 賢一
	橋 惠	犬伏 絢	
(無鑑査)	森 明	藤井 哲信	
(贊助出品)	中川 存	矢野 款一	

☆ 書 道

(特別出品)	新居 藍 州			
(招待)	宮井 青 雨	長原 原 皋 聖	西 南 龍	
	成尾 莊 秀	原田 水 桂 月	芝 原 醒 鶴	
	前川 古 舟	清 水 谷 史 子	美 馬 幾 美 賀	
	春藤 大 耿	中 谷 上 虹 泉	長 谷 藤 美 静 苑	
	勝 瀬 景 流	川 上 島 順 子	近 荒 藤 井 彭 仙	
	日 下 溪 翠	岡 山 口 華 勝 子	藤 富 久 鳴 泉	
	竹 田 和 代 雲	山 中 尾 田 小 園	富 坂 本 本 清 玲 泉	
	武 市 松 春 苑	島 田 田 英 乾 青 蓮	坂 本 田 浦 富 美 代	
	永 浜 佳 香 芳	隅 玉 高 田 石 文 春		
	多 田 清 華 瑤 鳳 泉	川 村		
(無鑑査)	戸 出 芳 泉			
(贊助出品)	東 南 光			
(遺作)	上 田 溪 水			

☆ デザイン

(特別出品)	福井 章	坂本 三千一	
(招待)	斎藤 繁次	坂野 美恵子	敷 島 のり子
(無鑑査)	斎藤 志津子		

# あ と が き

本会の二大事業である第16回放美展が5月2日(金)から6日(火)まで、第63回県美術展が第1期が10月4日(土)から12日(日)まで、第2期が10月14日(火)から22日(水)まで県郷土文化会館で開催されました。両展とも応募作品が少し増加したことは喜ばしいことであったと思います。

例年のように各部会長から一年間の各部の動向や会員の消息をいただきましたのでごらん下さい。なお、会員の方で掲載したい情報がありましたら、各部会長にご相談くださるようお願いいたします。

今年の表紙は書道部の担当ということで新居藍州さんからいただきました。

最後になりましたが、会員の皆様にはご健康に留意されまして、ますます創作活動に励まれますよう祈念いたします。さらなる協会の充実発展にもお力ぞえを下さるようお願いいたします。

平成 21 年 3 月

県美術家協会事務局

## 美 術 年 報 2009年

---

平成21年3月30日 印刷

平成21年3月31日 発行

編集者 清 水 博

装幀者 新 居 藍 州

発行人 佐 野 比呂志

印刷所 原田印刷出版株式会社

発行所 徳島県美術家協会

(徳島市名東町1丁目246 清水方)

---